B6FJ-2751-01

FMV
らくらくパソコン

# 取扱ガイド

各部の名称／取り扱い／仕様

FUJITSU

# 『画面で見るマニュアル』のご案内

## 説明している主な内容

- パソコンの基本
- セキュリティ対策
- インターネット／Eメール
- 使いこなし事例集
- パソコン本体の取り扱い
- 周辺機器の接続
- 添付ソフトウェア一覧
- 困ったときのQ&A

この他にも役立つ情報が盛りだくさんです。

### 画面で見るマニュアルを起動するには

（スタート）→「すべてのプログラム」→「画面で見るマニュアル」の順にクリックしてください。

## 参照先の探し方

冊子のマニュアルの本文内に、≫「******(6桁の数字)」とある場合は『画面で見るマニュアル』で検索してご覧ください。

『画面で見るマニュアル』について詳しくは、画面右上の ? を クリックしてください。

テクニカルコミュニケーター協会が定める「画面で見るマニュアル標準マーク」です。

# 目次





画面で見るマニュアル｜添付の冊子マニュアル ▶このマニュアルの巻頭でご案内しています。

# 安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、『安心してお使いいただくために』の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

# このマニュアルの表記について

## 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、画面およびイラストが若干異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

## 安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

| | |
|---|---|
| ⚠警告 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。 |
| ⚠注意 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。 |

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

| | |
|---|---|
| ⚠ | △で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。 |
| ⃠ | ⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。 |
| ❗ | ●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。 |

## 本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

| 記号 | 意味 |
|---|---|
| 重要 | お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。 |
| Point | 操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。 |
| ••▶ | 参照先を記述しています。 |
| 参照 | 参照していただきたいマニュアルを記述しています。 |
|  | 冊子のマニュアルを表しています。 |
|  | 画面で見るマニュアルを表しています。<br>（起動方法について、このマニュアルの巻頭でご案内しています。） |
|  | CD-ROM ／ DVD-ROM を表しています。 |

## 製品の呼び方について

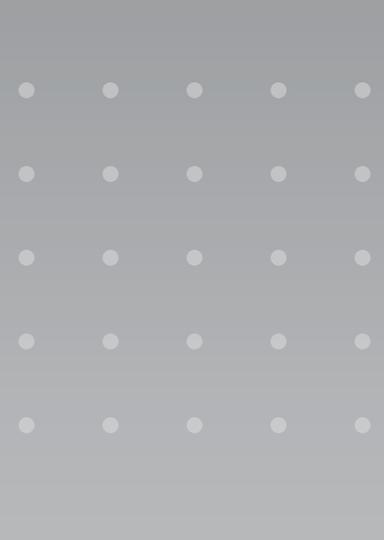
このマニュアルでは製品名称などを、次のように略して表記しています。

| 製品名称 | このマニュアルでの表記 |
|---|---|
| Windows® 7 Home Premium | Windows または<br>Windows 7 または<br>Windows 7 Home Premium |
| Windows® 7 Professional | Windows または<br>Windows 7 または<br>Windows 7 Professional |
| Windows® 7 Ultimate | Windows または<br>Windows 7 または<br>Windows 7 Ultimate |
| Windows® Internet Explorer® 8 | Internet Explorer |
| 情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律 | 省エネ法 |
| スーパーマルチドライブ | CD/DVD ドライブ |
| PS/2 キーボード（ワンタッチボタン付、105 キー） | キーボードまたは PS/2 キーボード |
| USB マウス（光学式） | マウスまたは USB マウス |
| 画面で見るマニュアル V2.1 | 画面で見るマニュアル |

## 商標および著作権について

Microsoft、Windows、Aero、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel、およびインテル Core は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の登録商標または商標です。
SD ロゴおよび SDHC ロゴは、商標です。
「メモリースティック」、「メモリースティック PRO」、「メモリースティック Duo」、「メモリースティック PRO Duo」、「メモリースティック PRO-HG Duo」、「メモリースティックマイクロ」、「マジックゲート」 および MEMORY STICK は、ソニー株式会社の商標または登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。



ドルビー、DOLBY、AC-3、プロロジック及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

第1章

# 各部の名称と働き

パソコンの各部の名称と働きについて説明しています。
ここでは、代表的な機能を説明しています。



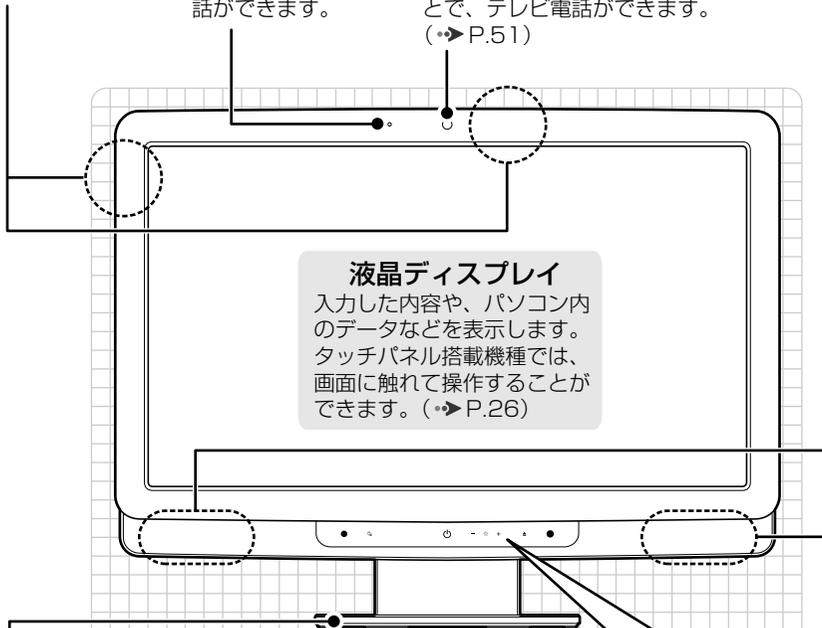
1

# パソコン本体前面

**無線 LAN アンテナ**
無線 LAN のアンテナが搭載されています。

**デジタルマイク**
テレビ電話用ソフトを利用して、音声通話ができます。

**Web カメラ**
内蔵のデジタルマイク、テレビ電話用ソフトと合わせて使うことで、テレビ電話ができます。（→P.51）

**スピーカー**
パソコンの音声を出力します。

**液晶ディスプレイ**
入力した内容や、パソコン内のデータなどを表示します。タッチパネル搭載機種では、画面に触れて操作することができます。（→P.26）



**ハードディスク／ CD アクセスランプ**
内蔵ハードディスクや CD、DVD にアクセスしているときに点滅します。

**明るさ調節ボタン**
画面の明るさを調節します。（→P.32）

**スイーベル**
パソコン本体を左右に回転して見やすい角度に調整します。

**電源ボタン**
パソコン本体の電源を入れたり切ったりします。（→P.14）

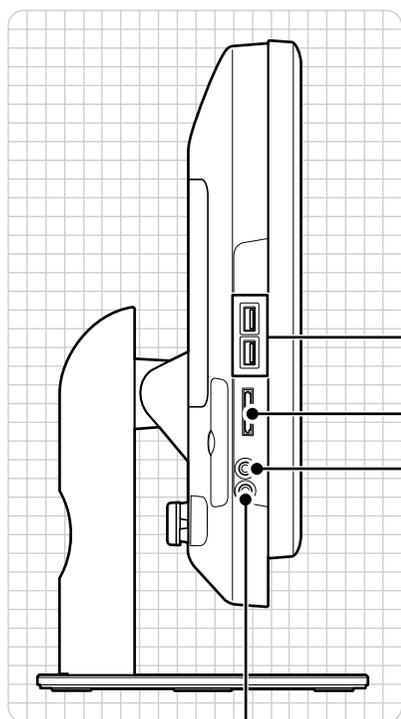
**CD/DVD 取り出しボタン**
ディスクをセットしたり取り出したりします。

パソコン本体前面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

**参照**
『画面で見るマニュアル』»「000270」で検索
→「各部の名称と働き：パソコン本体前面」

# パソコン本体側面

## パソコン本体左側面

### USB（ユーエスビー） コネクタ

プリンターなどの USB 規格の周辺機器を接続します。

### ダイレクト・メモリースロット

SD メモリーカードやメモリースティックの差し込み口です。
miniSD カード、microSD カード、microSDHC カードおよびメモリースティック Duo などは、アダプターを使用してください。（→P.42）

### ヘッドホン・ラインアウト兼用端子

外径 3.5mm のミニプラグに対応した市販のヘッドホンを接続します。また、設定を変更することでオーディオ機器などの音声入力端子と接続するラインアウト端子として使用することもできます。

### マイク・ラインイン兼用端子

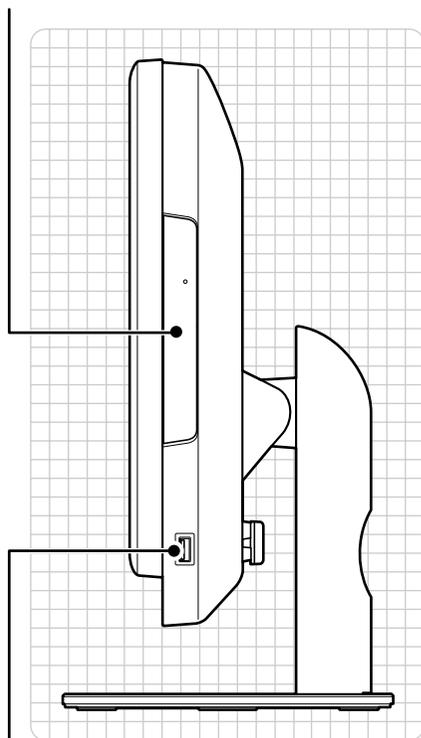
外径 3.5mm のミニプラグに対応した市販のパソコン用マイクを接続します。
また、設定を変更することでオーディオ機器などの音声出力端子と接続するラインイン端子として使用することもできます。

パソコン本体側面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「000280」で検索 →「各部の名称と働き：パソコン本体側面」→「パソコン本体左側面」

# パソコン本体右側面

**スーパーマルチドライブ**
CD や DVD をセットします。（→ P.33）

**USB（ユーエスビー） コネクタ（）**
プリンターなどの USB 規格の周辺機器を接続します。

パソコン本体側面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

**参照**

『画面で見るマニュアル』»「000280」で検索 →「各部の名称と働き：パソコン本体側面」→「パソコン本体右側面」

# パソコン本体背面



**通風孔**
パソコン本体内部と外部の空気を交換して熱を逃がすための開孔部です。

**スタンド**

**メモリスロット**
このパソコンのメモリが取り付けられています。
（→ P.57）

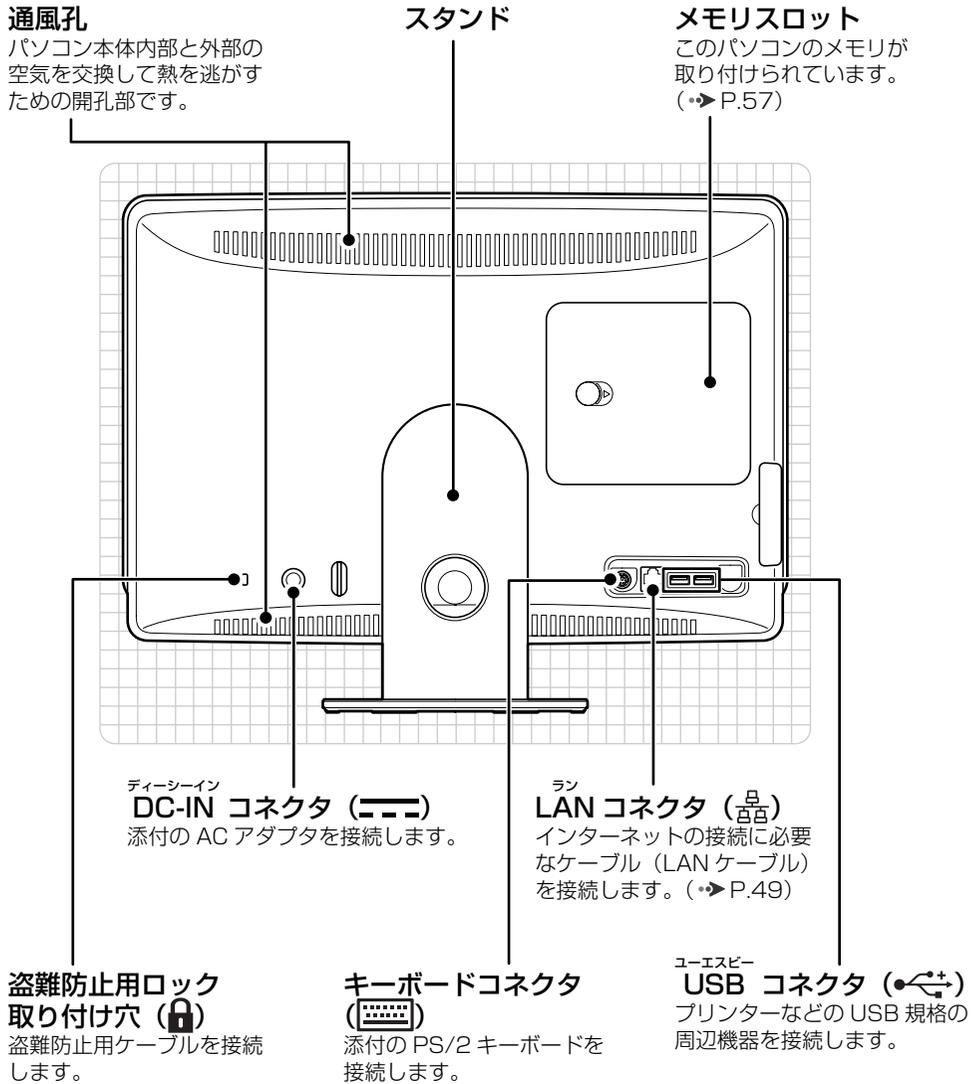
**DC-IN（ディーシーイン） コネクタ**
添付の AC アダプタを接続します。

**LAN（ラン） コネクタ**
インターネットの接続に必要なケーブル（LAN ケーブル）を接続します。（→ P.49）

**盗難防止用ロック取り付け穴**
盗難防止用ケーブルを接続します。

**キーボードコネクタ**
添付の PS/2 キーボードを接続します。

**USB（ユーエスビー） コネクタ**
プリンターなどの USB 規格の周辺機器を接続します。

---

パソコン本体背面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

**参照**

『画面で見るマニュアル』»「000300」で検索
→「各部の名称と働き：パソコン本体背面」

# キーボード

**A ⇔あボタン**
ボタンを押すごとに、入力できる文字を日本語／英数字で切り替えます。

**50 音入力ボタン**
「タッチ文字入力」を起動します。（→ P.26）

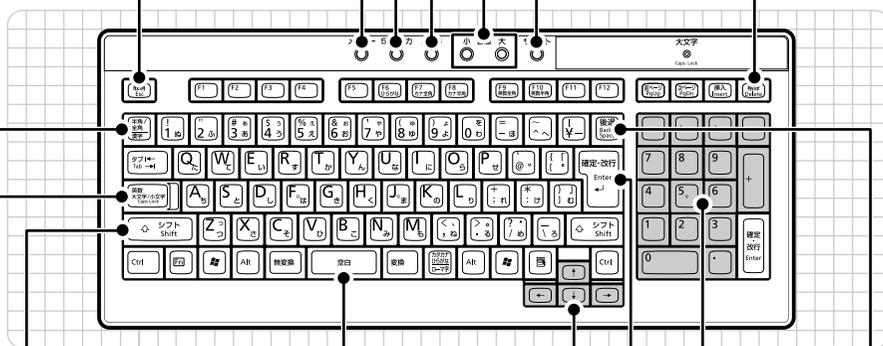
**メニューボタン**
「らくらくメニュー」を起動します。

**半角／全角キー**
キーを押すごとに、半角入力／全角入力を切り替えます。全角入力にすると、日本語を入力できます。

**取消（Esc（エスケープ））キー**
現在の作業を取り消します。

**音量調節ボタン**
パソコン本体の音量を調節します。（→ P.31）

**サポートボタン**
・Windows 起動時
「FMV サポートナビ」が起動し、「Q&A」や「日頃のメンテナンス」などのサポート機能を簡単に始めることができます。
・シャットダウン時
Windows が起動しないときにも、「ハードウェア診断」や「マイリカバリ」などトラブル解決に役立つサポート機能を使うことができます。
注：スリープ中の場合には「FMV サポートナビ」が起動します。

**削除（Delete（デリート））キー**
マウスポインターの右側にある 1 文字を削除します。

**シフト（Shift（シフト））キー**
［シフト Shift］を押しながらオレンジ色の記号の刻印されているキーを押すと、そのキーに刻印されている記号を入力できます。

**空白キー**
空白を入力します。

**テンキー**
数字や記号を入力します。

**カーソルキー**
カーソルを上下左右に移動します。

**後退（Back Space（バックスペース））キー**
マウスポインターの左側にある 1 文字を削除します。

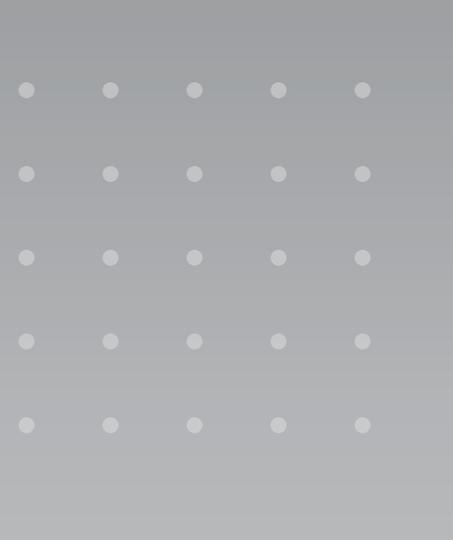
**大文字／小文字（Caps Lock（キャプスロック））キー**
［シフト Shift］を押しながら［英数 大文字/小文字 Caps Lock］を押して、英大文字入力／小文字入力を切り替えます。

**確定・改行（Enter（エンター））キー**
入力した文字を確定したり、改行したりします。

---

その他のキーや詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

**参照**

『画面で見るマニュアル』»「000220」で検索
→「各部の名称と働き：キーボード」

第2章

# パソコンの取り扱い

最初に確認していただきたいことと、使用上の注意事項などを説明しています。



2

# 電源を入れる／切る

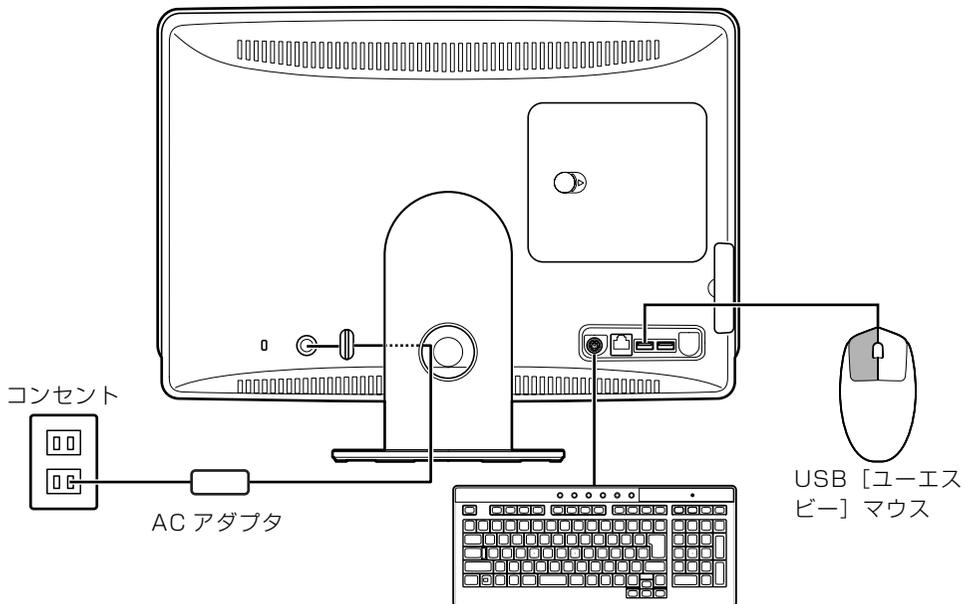
電源の入れ方と切り方はとても重要です。正しい方法を覚えてください。

## ⚠注意

・ディスクをセットするとき、および取り出すときには、CD/DVD ドライブのトレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

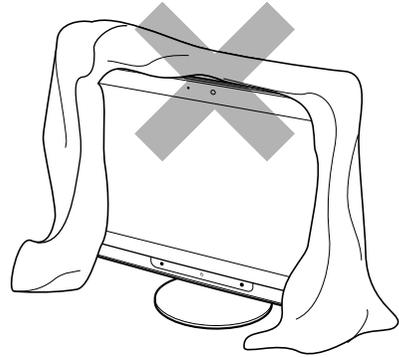
・電源を入れた状態で持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
故障の原因となります。

## 接続を確認する

電源を入れる前に、ケーブル類が正しく接続されているか確認してください。

# 電源を入れる

ここでは電源の入れ方のうち Windows を起動する方法を説明しています。

**重要 電源を入れるときの注意**

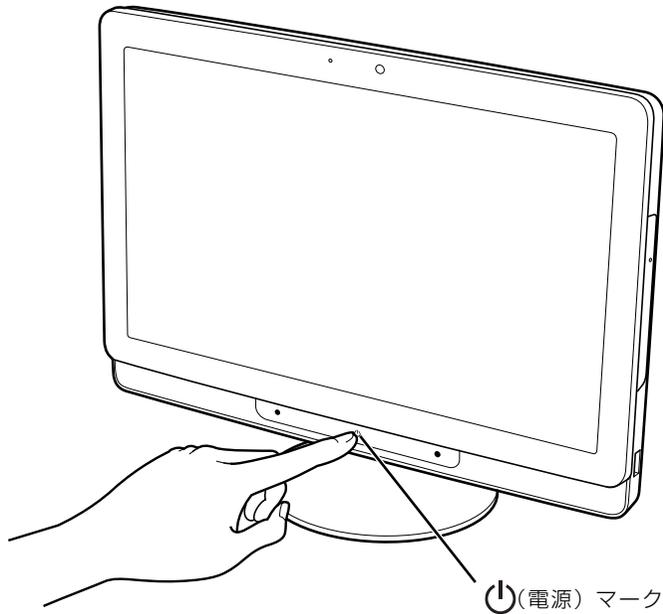
- 電源を切った後は、次に電源を入れ直すまで 10 秒ほどお待ちください。
- パソコンに布などのカバーをかけている場合は、必ずそれらを完全に取り外してから電源を入れてください。パソコンの通風孔などが布などでふさがれたまま使用すると、パソコン内部に熱がこもり、動作不良や本体カバーの変形が起きることがあります。
- 電源を入れた後は、手順 4 の画面が表示されるまでは電源を切らないでください。手順 4 の画面が表示される前に電源を切ると、パソコンの動作が不安定になります。

**重要 しばらく操作しないと**

電源を入れた状態でしばらく（約 5 分間）操作しないと、動画（スクリーンセーバー）が表示されたり、画面が真っ暗になったりすることがありますが、電源が切れたわけではありません。これはパソコンの省電力機能が働いている状態です。
マウスを動かしたり、キーボードの【↑】【↓】【←】【→】や【Shift】のどれかを押したりすると、元の画面に戻ります。

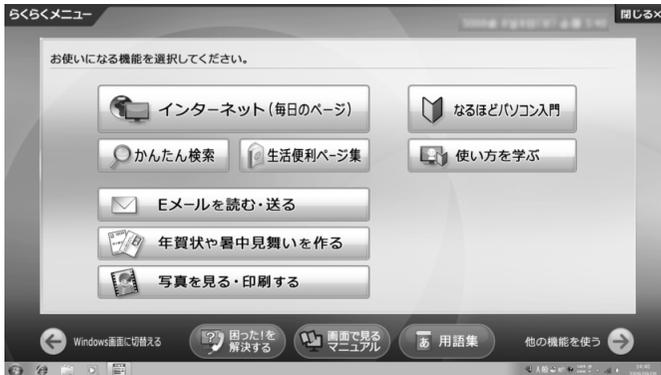
## 1 パソコンに接続されている機器の電源を入れます。

## 2 AC アダプタがコンセントに接続されていない場合は、電源プラグをコンセントに差し込みます。

## 3 パソコン本体前面の⏻(電源) マークに触れます。

手袋や絆創膏などのない、素手で触れてください。

(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

電源ボタンが点灯し、画面にさまざまな文字などが表示されます。そのまま、しばらくお待ちください。

# 4 このような画面が表示されたことを確認します。

（画面は機種や状況により異なります）

**Point** Windows が起動しない場合

電源を入れても Windows が起動しない場合は、次のマニュアルをご覧ください。

**参照**

『トラブル解決ガイド』
→「Q&A 集」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」→「起動／終了」

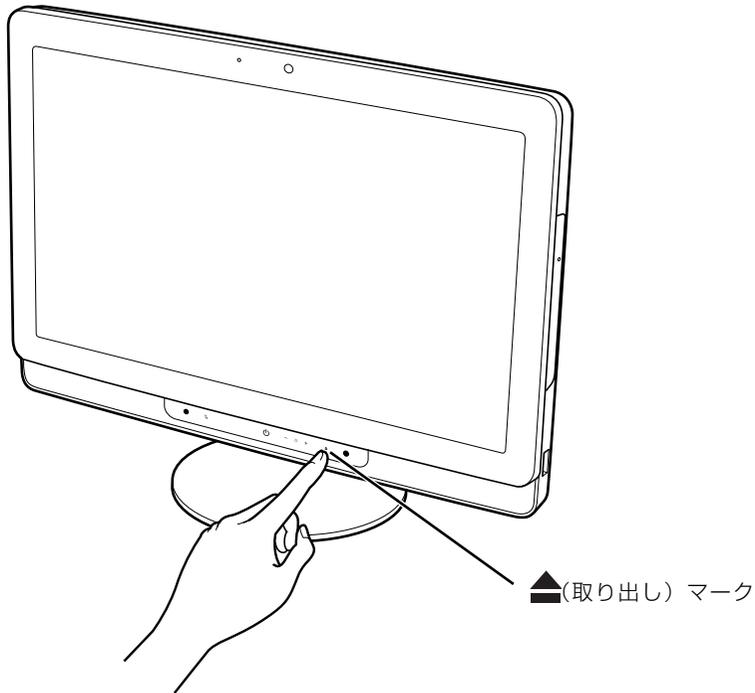
## 電源を切る

ここでは電源の切り方のうち Windows を終了する方法を説明しています。
このパソコンを使わないときは、Windows を終了せずに「待機状態（スリープ）」にしておくこともできます。
スリープする方法については、「パソコンを待機状態にする／復帰させる」（→P.20）をご覧ください。

# 1 作業中のデータを保存し、ソフトウェアを終了します。

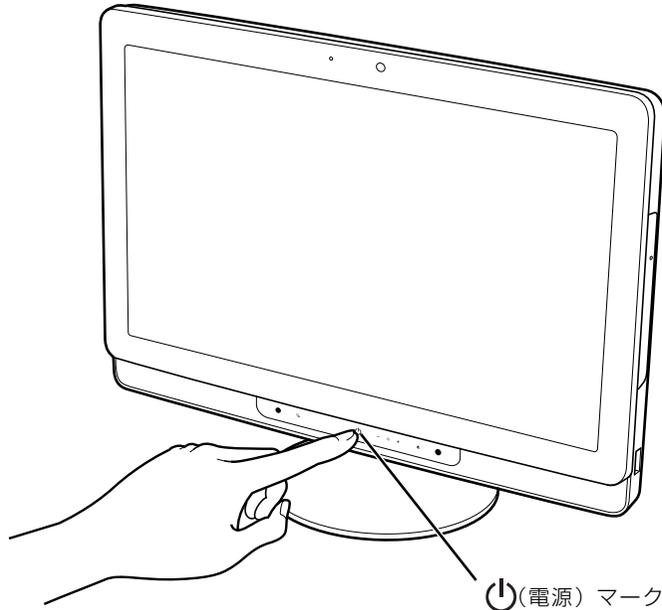
ソフトウェアを起動したままでもこれ以降の操作を進められますが、途中で作業中のデータを保存するか確認するメッセージが表示されることがあります。誤動作の原因となるので、あらかじめデータを保存した後、ソフトウェアを終了してください。

## 2 CD や DVD などがセットされていたら、パソコン本体前面の⏏(取り出し）マークに触れて取り出します。

手袋や絆創膏などのない、素手で触れてください。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

パソコンの電源を切ってしまうと、CD や DVD などは取り出せません。

## 3 パソコン本体前面の⏻（電源）マークに触れます。

手袋や絆創膏などのない、素手で触れてください。

しばらくすると Windows が終了し、パソコン本体の電源が自動的に切れます（画面が暗くなり、パソコン本体の電源ボタンが消灯します）。

**重要 ⏻（電源）マークには触れ続けないでください**

⏻（電源）マークに 4 秒以上触れ続けると、Windows などの正常な終了処理ができないまま、強制的に電源が切れてしまいます。

**Point 「スタート」メニューからも電源が切れます**

1. （スタート）→ シャットダウン の順にクリックします。
   電源が切れます（画面が暗くなり、電源ボタンが消灯します）。

**Point 電源が切れない場合**

マウスやキーボードが操作できないなど、電源を切る操作ができないときは、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『トラブル解決ガイド』
→「Q&A 集」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」→「起動／終了」

それでも電源が切れないときは、⏻（電源）マークに 4 秒以上触れ続けて、強制的に電源を切ってください。電源を切った後、電源ボタンが消灯している（電源が切れている）ことを確認してください。電源ボタンが点滅しているときは、スリープ状態になっているため電源が切れていません。もう一度⏻（電源）マークに 4 秒以上触れ続けて電源を切ってください。

## 4 パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

# パソコンを待機状態にする／復帰させる

このパソコンを使わないときは、パソコンの電源を切らずに待機状態にしておくと、次にパソコンを使うときにすぐに使い始めることができます。
待機状態にはスリープと休止状態があります。
ここでは、パソコンをスリープする方法と、スリープから復帰する方法について説明します。

### Point 次の場合はパソコンの電源を切ってください

・パソコンを長期間使わないとき
・パソコンの動作が遅くなったり、正常に動作しなくなったとき
　いったんパソコンの電源を切り、再度電源を入れ直してください。
電源の切り方については、「電源を切る」（→P.17）をご覧ください。

### Point スリープとは

パソコンの電源を切らずに、作業中のデータなどをメモリに保存して、パソコンを待機状態にすることです。
スリープ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しずつ電力を消費しています。

## パソコンをスリープする

### 1 作業中のデータを保存し、ソフトウェアを終了します。

誤動作の原因となるので、あらかじめデータを保存した後、ソフトウェアを終了してください。

### 2 (スタート)→ シャットダウン ▷ の ▷ →「スリープ」の順にクリックします。

（画面は機種や状況により異なります）

パソコンがスリープします。スリープ中は、電源ボタンが点滅します。

## スリープから復帰する

### 1 パソコン本体前面の⏻(電源)マークに触れます。

手袋や絆創膏などのない、素手で触れてください。
パソコンがスリープから復帰（レジューム）します。⏻(電源) マークは 4 秒以上触れ続けないでください。パソコンの電源が切れてしまいます。

**Point 復帰するときは**

スリープにした後、すぐに復帰（レジューム）しないでください。
必ず、10 秒以上たってから復帰（レジューム）するようにしてください。

スリープや休止状態については、次のマニュアルもご覧ください。

**参照 省電力機能について**

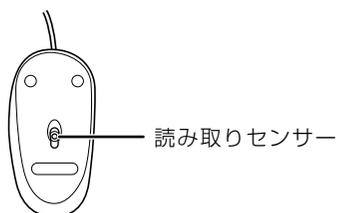
『画面で見るマニュアル』»「000410」で検索
→「省電力機能を使う」

# マウスを使う

ここでは、USB［ユーエスビー］マウス（光学式）について説明します。

## 光学式マウスについて

### マウスのしくみ

光学式マウスには、裏面に光学式読み取りセンサーが付いています。マウスを机の上などですべらせると、マウス裏面から出された赤い光の陰影を光学式センサーで検知し、画面のマウスポインターが動くようになっています。

### 光学式マウスをお使いになるうえでの注意事項

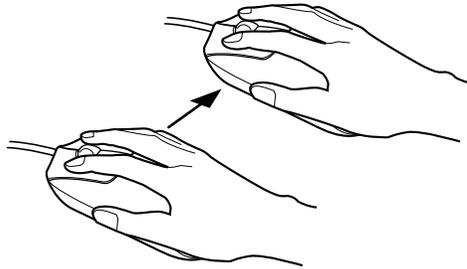
光学式マウスは、机の上だけでなく、紙の上などでもお使いになることができますが、次のようなものの表面では正しく動作しない場合があります。

- 鏡やガラスなど、反射しやすいもの
- 光沢があるもの
- 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
- 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの

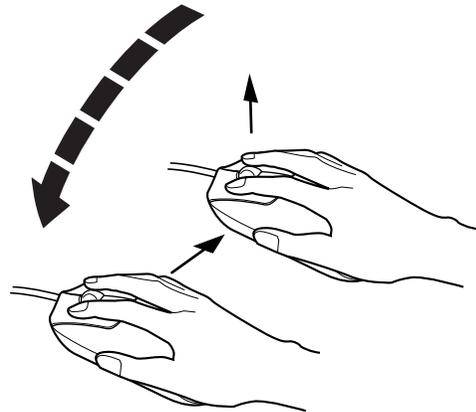
光学式センサーは机などと接触せずにマウスの動きを検知しているため、特にマウスパッドなどの必要はありませんが、マウス本体は机などと接触しているため、傷が付きやすい机やテーブルの上では、マウスパッドなどをお使いになることをお勧めします。

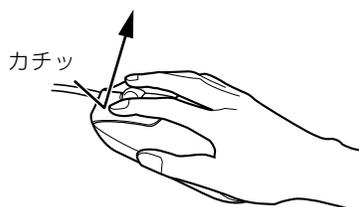
# マウスの使い方

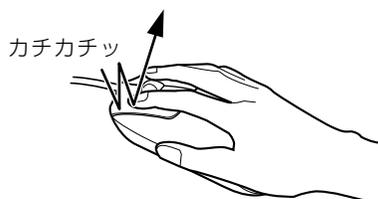
## マウスポインター（ ）を移動させる

マウスを動かすことで、画面上のマウスポインター（ ）を移動させます。

（これ以降のイラストは状況により異なります）

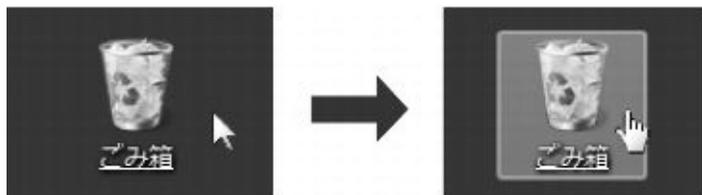
**Point** マウスポインターを大きく動かしたい場合は

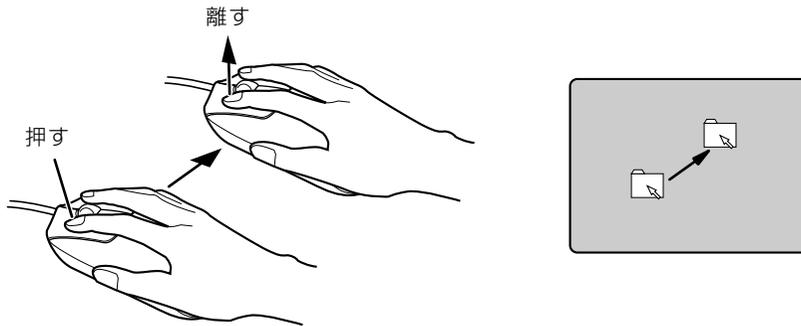
いったんマウスを持ち上げて、もう一度別の位置からなぞってください。マウスを持ち上げてもマウスポインターは動きません。

## クリック

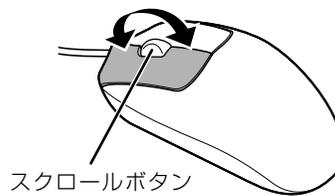
左ボタン（藤色のボタン）をカチッと 1 回押して、すぐ離すことです。
また、右ボタンを 1 回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

## ダブルクリック

左ボタン（藤色のボタン）をカチカチッと 2 回素早く押して、すぐ離すことです。

## ポイント

マウスポインターをアイコンやメニューなどに合わせることです。ポイントすると、項目が反転表示されたり、項目の説明が表示されます。

 画面で見るマニュアル ｜ 添付の冊子マニュアル ▶このマニュアルの巻頭でご案内しています。

## ドラッグ

マウスポインターを任意の位置に移動し、左ボタン（藤色のボタン）を押しながら希望の位置までマウスを移動し、指を離します。

## 画面のスクロール

スクロールボタンを前後に回すことで、画面の表示を上下にスクロールさせる（動かす）ことができます。

# タッチ機能を使う

このパソコンには、液晶ディスプレイを直接指先でタッチして操作できるタッチ機能を搭載しています。ここでは、タッチ機能を使った操作について説明しています。

## タッチ機能とは

タッチ機能とは、マウスやキーボードを使わずに、液晶ディスプレイを指などで直接触れてパソコンを操作することができる機能です。
マウスやキーボードを使わないので、より直感的で自由な操作が可能です。

## タッチ機能を使ってできること

このパソコンでは、タッチ機能を使って、次の操作ができます。

- 指先でマウスポインターを動かす
- マウスと同様の「クリック」や「ドラッグ」などの操作ができる
- タッチ操作による文字入力（「タッチ文字入力」、「ソフトウェアキーボード」など）
- 画像の表示サイズを拡大、縮小する
- 画像を回転させる
- 絵を描いたり、文字を入力したりする

Point **タッチ操作による文字入力をするときは**

指の代わりにペンなどを使うこともできます。キャップなどで先端を保護してから使うようにしてください。ボールペンの先などのように固いものや先端がとがっている状態で使うと、画面に傷が付きます。また、インクなどが画面に付着すると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。

次のマニュアルでは、この他にも、タッチ機能を使ったさまざまな操作を紹介しています。

参照 タッチ機能を使った操作について

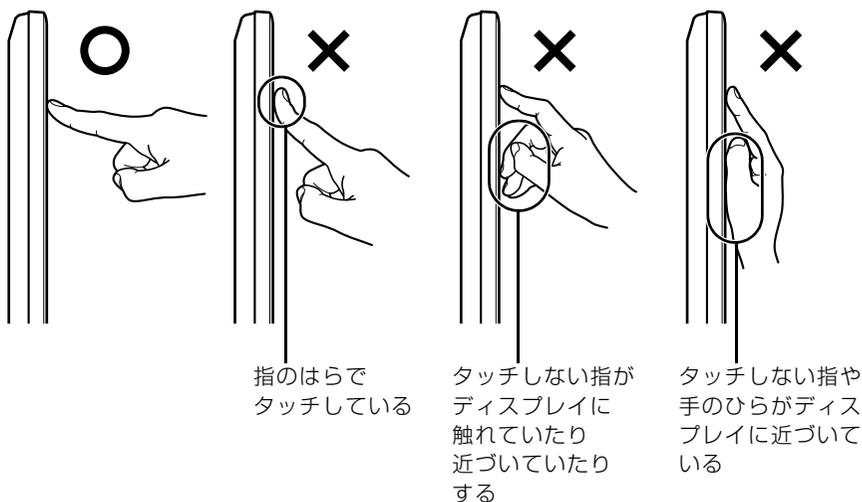
『画面で見るマニュアル』»「002060」で検索
→「タッチ機能を使う」

## タッチ機能についての注意

タッチ機能を使うときは、次の点に注意してください。

- 液晶ディスプレイをタッチするときは、強く押さないでください。
- 液晶ディスプレイ表面を引っかいたり、金属製のものや固いもので突いたりしないでください。パソコンが転倒したり、液晶ディスプレイが破損したりするおそれがあります。
- 濡れた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- ソフトウェアによっては、タッチ機能の反応が悪かったり、タッチ機能に対応していない場合があります。
  この場合は、マウスを使用してください。
- タッチ機能を使うときは、ゆっくりとていねいに画面にタッチしてください。

**重要** 液晶ディスプレイをタッチするときの注意

・指のはらでタッチしたり、タッチしない指や手のひらをディスプレイに近づけすぎないでください。指のはらでタッチしたり、タッチしていない指がディスプレイに接近している（約 1cm 以内）場合は、タッチした位置が正しく認識されないことがあります。

・次のものは使用しないでください。
  ・先端部が金属製（メッキ含む）のもの
  ・透明なもの
  ・濡れているもの
  ・消しゴムなど、こするとゴミが出るもの
  ・ブラシなど、毛が抜けるもの
  ・先端部が細いもの
  約 5mm 以下の場合、正しく認識されないことがあります。

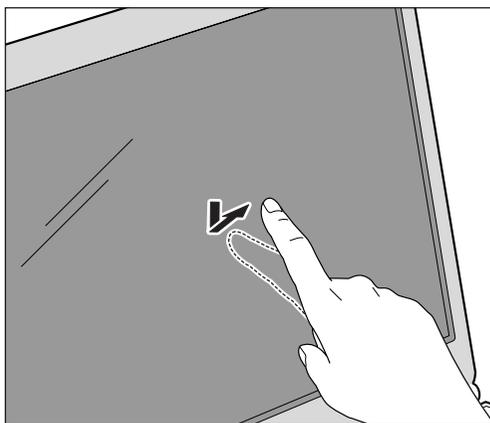
液晶ディスプレイ（タッチパネル）に、ほこりや皮脂が付着していると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。液晶ディスプレイは、ときどき清掃してください。
液晶ディスプレイの清掃方法については、「液晶ディスプレイのお手入れ」（→P.69）をご覧ください。

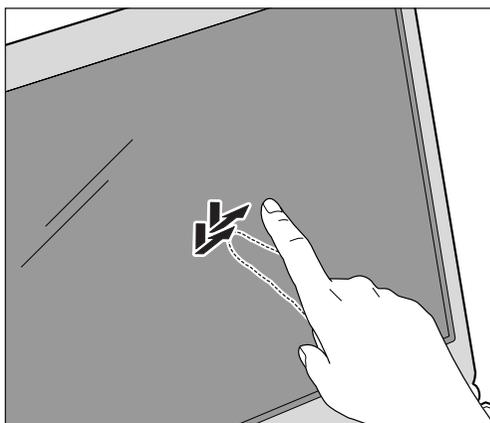
# タッチ機能を使う

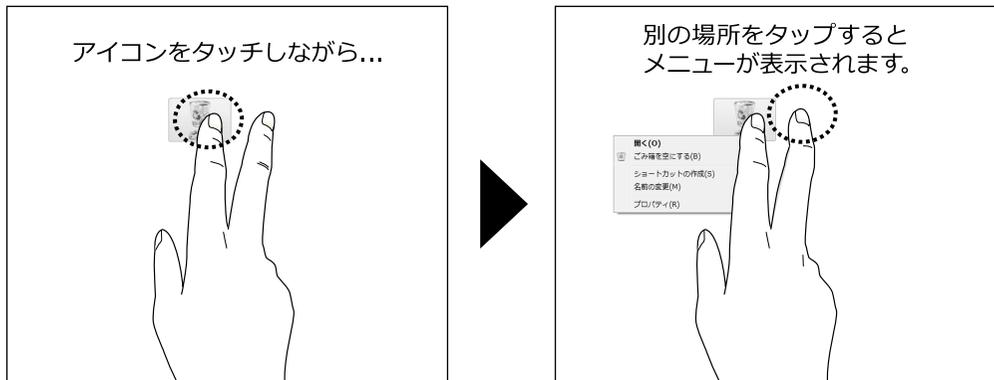
ここでは、タッチ機能を使った主な操作について説明します。

## マウスと同じ操作

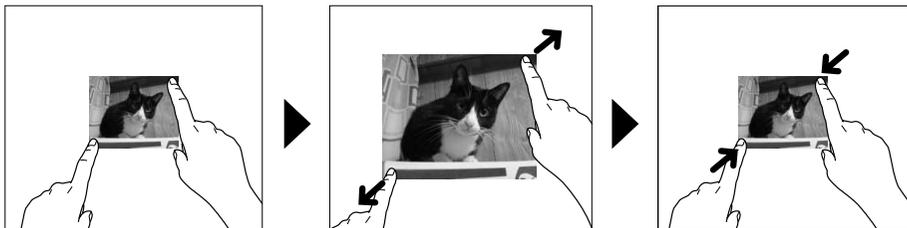
### クリック　（タップ）

画面を 1 回軽くたたくきます。これをタップといいます。

### ダブルクリック　（ダブルタップ）

画面を 2 回連続して軽くたたきます。

## 右クリック

画面のアイコンなどに 1 本の指でタッチしたまま、別の指で画面の別の場所をタップします。

# 2 本の指を使う操作

## 拡大、 縮小

表示サイズを変更したい画像などを、2 本の指でタッチし、そのまま 2 本の指の間隔を変えます。指の間隔を狭めると縮小し、指の間隔を広げると拡大します。なお、画像が表示されている位置によっては、操作がスムーズにできないことがあります。

# 「らくらく操作パネル」で操作する

「らくらくメニュー」で「インターネット（毎日のページ）」をクリックすると、画面右横に「らくらく操作パネル」が表示されます。「らくらく操作パネル」は、使いたいメニューを直接タッチして操作することができます。

## 「タッチ文字入力」を使って文字を入力する

「タッチ文字入力」を使って、「Internet Explorer［インターネットエクスプローラ］」で検索してみましょう。

### 1 「Internet Explorer」の検索バー（文字入力が可能な領域）を、1 回タッチします。

### 2 画面上に表示された あ タッチ文字入力 をタッチします。

「タッチ文字入力」画面が表示されます。

### 3 表示された「タッチ文字入力」画面で、文字にタッチして入力していきます。

### 4 入力が終わったら、「確定」ボタンをタッチします。

「Internet Explorer」の検索バーに、入力した文字が表示されます。

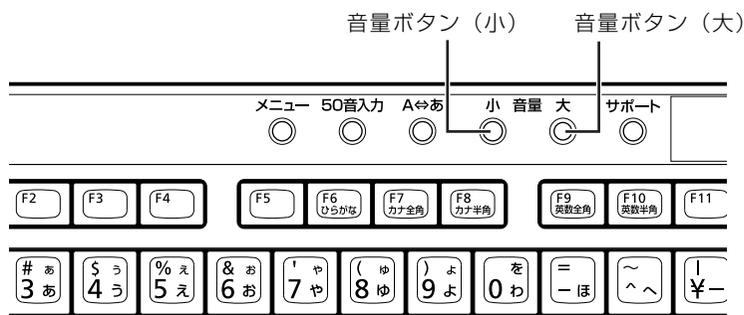
### 5 をタッチします。

検索結果が表示されます。

# 音量を調節する

ここでは、キーボードの音量調節ボタンから音量を調節する方法について説明します。
キーボードの音量調節ボタンは、Windows が起動している場合に音量を調節できます。

## 1 キーボード上部にある音量調節ボタンを押して、適切な音量に調節します。

音量ボタン（小）を押すと小さく、音量ボタン（大）を押すと大きくなります。

（イラストは機種や状況により異なります）

### 音量を調節する方法はいろいろあります Column

画面右下の通知領域にある （スピーカー） など、 他の方法でも音量を調節できます。

**参照 他の方法で音量を調節する場合**

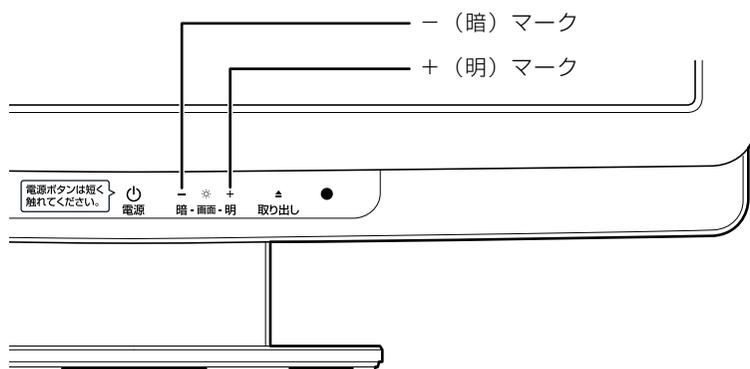
『画面で見るマニュアル』»「000190」で検索
→「音量を調節する」

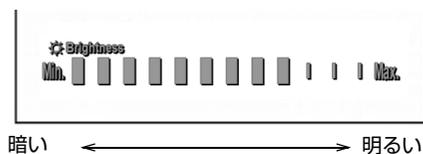
# 画面の明るさを調節する

ここでは、液晶ディスプレイの明るさを調節する方法について説明します。
パソコン本体前面の明るさ調節ボタンで、液晶ディスプレイの明るさを変更することができます。

## 1 パソコン本体前面にある＋（明）マークや−（暗）マークに触れて、適切な明るさに調節します。

手袋や絆創膏などのない、素手で触れてください。
＋（明）マークに触れると明るく、−（暗）マークに触れると暗くなります。

**■パソコン本体前面**

（イラストは機種や状況により異なります）

明るさ調節中は、画面下部に明るさを示すインジケーターが表示されます。

# CD/DVD を使う



## このパソコンでできること

このパソコンでは、CD や DVD の読み出しや書き込みをしたり、音楽 CD や DVD-VIDEO を再生することができます。

詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

**参照 CD や DVD で楽しむ**

『画面で見るマニュアル』
→「おすすめメニュー」→「CD/DVD」

# 使えるディスク／使えないディスク

## 使えるディスク

このパソコンでは、8cm の CD または 12cm の CD や DVD がお使いになれます。
なお、CD や DVD にはさまざまな種類があります。このパソコンでお使いになることのできる CD や DVD は、次のとおりです。

| | 種別 | 読みかたの例 |
|---|---|---|
| **CD** | **CD-ROM** | シーディーロム |
| | **CD-DA（音楽 CD）** | シーディーディーエー |
| | **フォト CD** | フォトシーディー |
| | **ビデオ CD** | ビデオシーディー |
| | **CD-R** | シーディーアール |
| | **CD-RW** | シーディーアールダブル<br>シーディーリライタブル |
| **DVD** | **DVD-ROM** | ディーブイディーロム |
| | **DVD-VIDEO** | ディーブイディービデオ |
| | **DVD-R** | ディーブイディーアール<br>ディーブイディーマイナスアール |
| | **DVD-R DL** | ディーブイディーアールダブルレイヤー<br>ディーブイディーマイナスアールダブルレイヤー |
| | **DVD-RW** | ディーブイディーアールダブル<br>ディーブイディーマイナスアールダブル |
| | **DVD+R** | ディーブイディープラスアール |
| | **DVD+R DL** | ディーブイディープラスアールダブルレイヤー |
| | **DVD+RW** | ディーブイディープラスアールダブル |
| | **DVD-RAM（注）** | ディーブイディーラム |

注：DVD-RAM をお使いになる場合には、フォーマットが必要です。

このパソコンのCD/DVD ドライブの読み込み／書き込み／書き換え速度については、「DVD/CD ドライブ」（→P.86）をご覧ください。

**重要** DVD-RAM について

- カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。カートリッジに入れた状態で使用するタイプ（Type1）は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。
- 2.6GB および 5.2GB のディスクは、使用できません。
- DVD-RAM2（12 倍速／ 16 倍速）は、使用できません。

## 推奨ディスク（2009 年 9 月現在）

次のディスクの使用を推奨します。
下記以外のディスクをお使いの場合は、書き込み／書き換え速度が低下することがあります。また、正常に書き込み／書き換えができない場合や再生できない場合があります。

| ディスク | メーカー | メーカー型名 |
|---|---|---|
| CD-R | 太陽誘電（That's） | CDR80WTY、CDR80WPY |
| CD-RW | 三菱化学メディア | SW74QU1、SW80QU1、SW74EU1、SW80EU1 |
| DVD-R | 太陽誘電（That's） | DR-47WTY50BNT、DR-47WKY10SN、<br>DR-47WTY20AA、DR-47WPY30AA |
| DVD-R DL | 三菱化学メディア | DHR85H1 |
| DVD-RW | 日本ビクター | VD-W47H |
| | 三菱化学メディア | DHW47R1 |
| DVD+R | 太陽誘電（That's） | DR+47WTY10PN |
| | 三菱化学メディア | DTR47J10 |
| DVD+R DL | 三菱化学メディア | DTR85H1 |
| DVD+RW | 三菱化学メディア | DTW47U1 |
| DVD-RAM | パナソニック | LM-HC47M（4.7GB、カートリッジ無）、<br>LM-HB47MA（4.7GB、カートリッジ有、取り出し可）、<br>LM-HB94M（9.4GB、カートリッジ有、取り出し可） |
| | 日立マクセル | DRM47PWC.S1P5S A（4.7GB、カートリッジ無） |

## 使えないディスク

次のディスクはお使いにならないでください。

- 円形以外の異形ディスク（星型やカード型などの変形ディスク）
  このパソコンは円形のディスクのみお使いになれます。
  円形以外の異形ディスクをお使いになると故障する場合があります。
  異形ディスクをお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 規格外の厚さの DVD 媒体
  DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ～ 1.5mm と規定しています。
  記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
  規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 市販のクリーニングディスク、レンズクリーナー
  市販のクリーニングディスク、レンズクリーナーをお使いになると、逆にゴミを集めてしまい、CD/DVD ドライブのレンズが汚れてしまう場合がありますので、お使いにならないでください。
- 中心に穴のあいていないディスク
- 傷またはヒビの入ったディスク
  傷またはヒビの入ったディスクをお使いになるとドライブ内で破損する場合があります。

参照 このパソコンで使えるディスクや使えないディスクについて

『画面で見るマニュアル』»「000050」で検索
→「使えるディスクと対応ソフトウェア」

## ディスクを再生するときの注意

「WinDVD［ウィンディーブイディー］」の更新について

このパソコンには、DVD を再生するソフトウェア「WinDVD」が用意されています。より快適に DVD を見るために、「WinDVD」は常に最新の状態に更新してお使いください。
「WinDVD」を更新するには、サポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）から対応プログラム（随時提供）をダウンロードして、インストールしてください。
ダウンロードの方法については、「ダウンロード」のページにある説明をご覧ください。インストール手順については、アップデートプログラムに添付されている「Readme.txt」をご覧ください。

参照 ディスクを再生するときの注意

『画面で見るマニュアル』»「000070」で検索
→「ディスクを再生するときの注意」

# ディスクをパソコンにセットする／取り出す

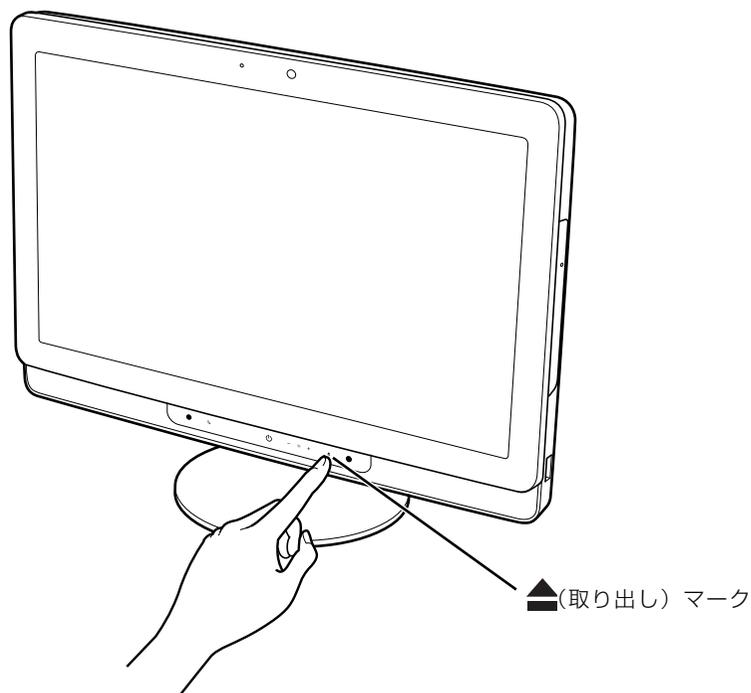
## ディスクをセットする

ディスクは、パソコンの電源が入っている状態のときにセットできます。

### ⚠注意

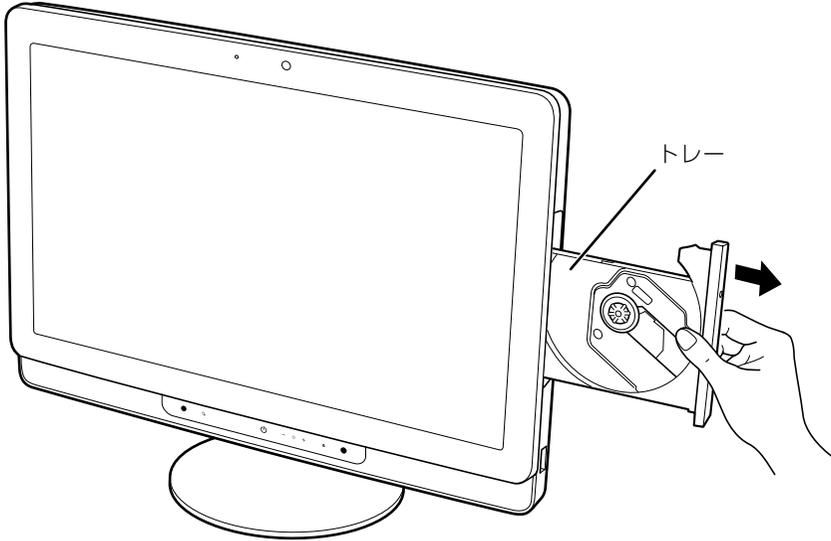
・ディスクをセットするとき、および取り出すときには、CD/DVD ドライブのトレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

## 1 パソコン本体前面の⏏（取り出し）マークに触れます。

手袋や絆創膏などのない、素手で触れてください。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

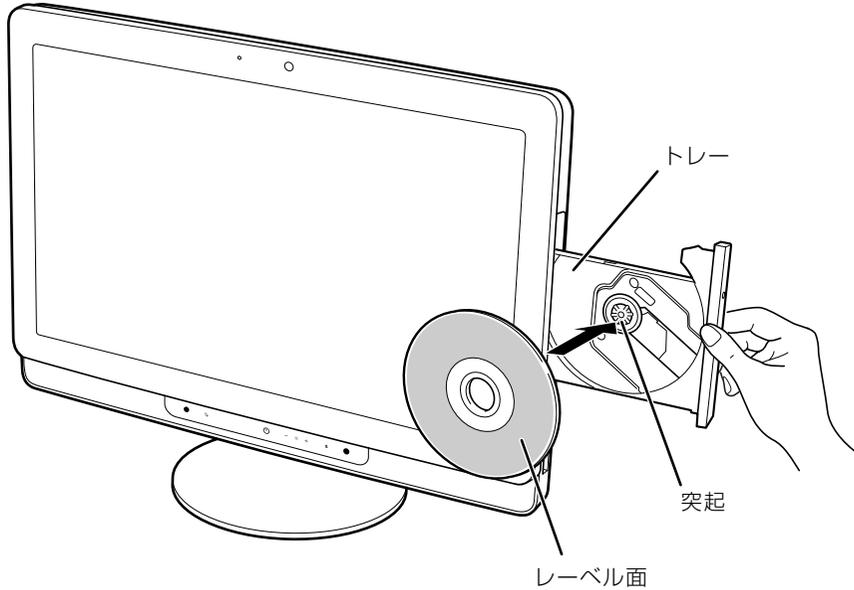
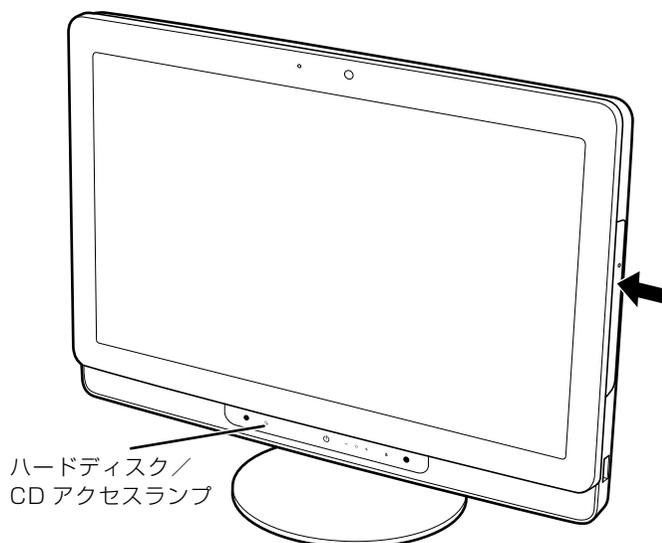
ディスクをセットするトレーが少し出てきます。

## 2 トレーの中央部を持って、トレーを静かに引き出します。

パソコン本体を左右に回転すると、操作しやすくなります。

**重要** トレーを引き出すときの注意

トレーを引き出すときは、勢いよく引っ張り出さないでください。

# 3 パソコンにディスクをセットします。

ディスクのレーベル面を手前側に（両面タイプの DVD-RAM の場合は、データの読み取り／書き込みを行う面を裏側に）して、トレーの中央の突起にディスクの穴を合わせ、「パチン」という音がするまでしっかりとはめ込んでください。このとき、パソコン本体が転倒しないようトレーを手で押さえてください。
きちんとはめ込まないと、再生できなかったり、ディスクが取り出せなくなったりすることがあります。

# 4 トレーを手で「カチッ」という音がするまで押します。

トレーがパソコン本体に入ります。ディスクがセットされ、ハードディスク／ CD アクセスランプが点滅します。ハードディスク／ CD アクセスランプが消灯したことを確認してから、次の操作に進んでください。
ディスクによっては、セットすると自動的に起動するものもあります。

# 5 「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、次のどちらかの操作をします。

・すでにソフトウェアが起動している場合は、 をクリックします。
・ソフトウェアが起動していない場合は、表示されている項目の一覧で使いたいソフトウェアをクリックします。

（画面は機種や状況により異なります）

## ディスクを取り出す

ディスクは、パソコンの電源が入っている状態のときに取り出すことができます。

### ⚠注意

・ディスクをセットするとき、および取り出すときには、CD/DVD ドライブのトレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

### 1 ディスクを使っているソフトウェアがあれば、終了します。

### 2 ハードディスク／ CD アクセスランプが消灯していることを確認し、パソコン本体前面の⏏（取り出し）マークに触れます。

手袋や絆創膏などのない、素手で触れてください。
ディスクがセットされたトレーが少し出てきます。

### 3 トレーの中央部を持って、トレーを静かに引き出します。

パソコン本体を左右に回転すると、操作しやすくなります。

**重要 トレーを引き出すときの注意**

トレーを引き出すときは、勢いよく引っ張り出さないでください。

### 4 ディスクを取り出します。

### 5 トレーを手で「カチッ」という音がするまで押します。

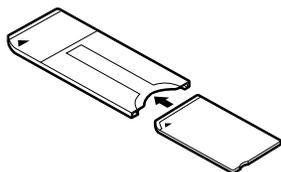
# メモリーカードを使う

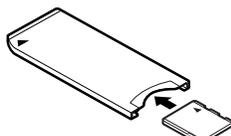
ここでは、このパソコンでお使いになれるメモリーカードの種類や、メモリーカードのセット方法、および取り出し方法について説明しています。
SD メモリーカードやメモリースティックを総称して、メモリーカードと呼んでいます。

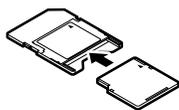
## メモリーカードをお使いになるうえでの注意

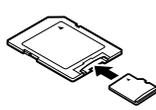
メモリーカードをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- メモリースティック Duo、メモリースティック PRO Duo、メモリースティック PRO-HG Duo、メモリースティックマイクロ、miniSD カード、microSD カード、または microSDHC カードをお使いの場合は、必ずアダプターにセットしてからお使いください。そのまま挿入すると、メモリーカードが取り出せなくなります。
また、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアダプターにセットしたまま取り出してください。アダプターだけをダイレクト・メモリースロットに残すと、故障の原因となります。

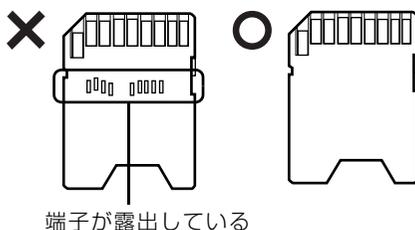
メモリースティック Duo アダプター

メモリースティック Duo
メモリースティック PRO Duo
メモリースティック PRO-HG Duo

メモリースティックマイクロアダプター

メモリースティックマイクロ

miniSD カードアダプター

miniSD カード

microSD カードアダプター

microSD カード
microSDHC カード

- メモリースティック Duo アダプターは、塗装部分が剥がれた状態では使用しないでください。ダイレクト・メモリースロット内部の端子が接触し、メモリースティック Duo、メモリースティック PRO Duo、メモリースティック PRO-HG Duo を認識しなかったり、故障の原因となります。
また、剥がれた塗装部分などにテープなどを貼って使用することもしないでください。アダプターが取り出せなくなる場合があります。

- miniSD カードのアダプターには、裏面の中央部から端子が露出している製品がありますが、このタイプのアダプターは使用しないでください。ダイレクト・メモリースロット内部の端子が接触し、故障の原因となる場合があります。
  miniSD カードのアダプターは、裏面中央部から端子が露出していない製品をご利用ください。

## 使えるメモリーカード

ダイレクト・メモリースロットは、デジタルカメラなどに使われているメモリーカードに直接データを読み書きするためのスロットです。
ダイレクト・メモリースロットが対応しているメモリーカードは次のとおりです。
なお、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

| MEMORY STICK〔注 1〕 | SD SDHC〔注 2〕 |
|---|---|
| ・メモリースティック<br>・メモリースティック（メモリーセレクト機能付）<br>・メモリースティック Duo（デュオ）<br>・メモリースティック PRO（プロ）<br>・メモリースティック PRO Duo（プロデュオ）<br>・メモリースティック PRO-HG Duo（プロエイチジーデュオ）<br>・メモリースティックマイクロ | ・SD メモリーカード<br>・miniSD（ミニエスディー）カード<br>・microSD（マイクロエスディー）カード<br>・SDHC（エスディーエイチシー）カード<br>・microSDHC（マイクロエスディーエイチシー）カード |

注 1 ： マジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。
注 2 ： マルチメディアカード、セキュアマルチメディアカードには対応していません。
著作権保護機能（CPRM［シーピーアールエム］）に対応していません。
このパソコンで使用できる SD メモリーカード、miniSD カード、および microSD カードの容量は、最大 2GB までです。SDHC カードおよび microSDHC カードの容量は、最大 32GB までです。

## メモリーカードをセットする／取り出す

### ⚠注意

・メモリーカードをセットまたは取り出す場合は、ダイレクト・メモリースロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

・取り外したメモリーカードは小さいお子様の手の届かないところに置いてください。
お子様が口に入れたり、誤って飲み込むとけがや窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

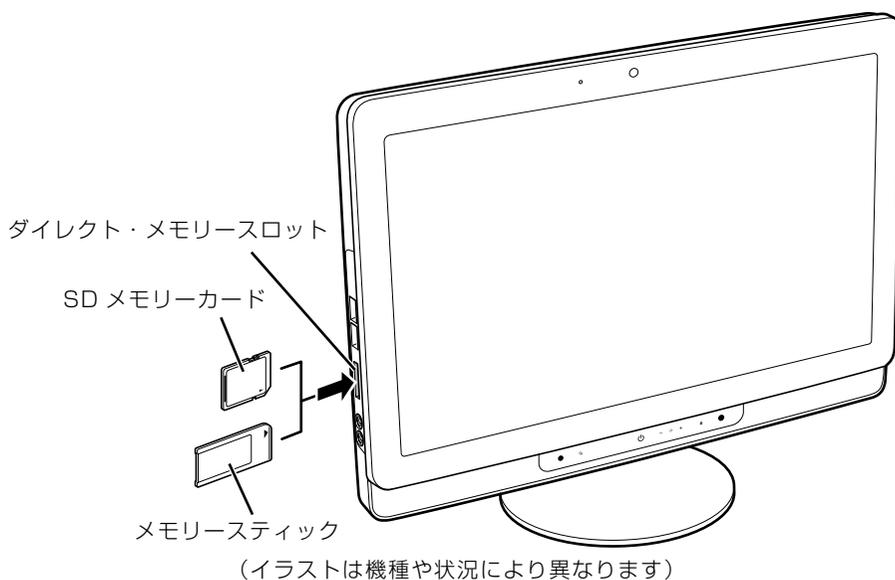
**重要 メモリーカードをお使いになるときの注意**

・メモリーカードや記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
・メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合は、お使いの機器でフォーマットしてください。Windows でフォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。デジタルカメラなどでのフォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

## メモリーカードをセットする

# 1 メモリーカードをダイレクト・メモリースロットにセットします。

パソコン本体を左右に回転すると、操作しやすくなります。

（イラストは機種や状況により異なります）

※製品名のある面をパソコン本体前面側にして、まっすぐにセットします。
※ SD メモリーカードとメモリースティックを同時に使用することはできません。

## Point 「マイフォト」について

このパソコンには画像表示ソフトウェア「マイフォト」が添付されています。メモリーカードをパソコン本体のダイレクト・メモリースロットにセットすると、「マイフォト」が起動する場合があります。
メモリーカードをダイレクト・メモリースロットにセットした場合に「マイフォト」を起動しないようにするには、「マイフォト」のメニュー画面の「設定」ボタンをクリックして、「このソフトを自動起動する」の「しない」の ○ を ◉ にして、「適用」ボタンをクリックします。

（画面は機種や状況により異なります）

「マイフォト」について、詳しくは次のマニュアルをご覧ください。

**参照 「マイフォト」について**

『画面で見るマニュアル』»「210750」で検索
→「マイフォト」

## メモリーカードを取り出す

### 1 メモリーカードにアクセスしていないことを確認します。

ファイルのコピー、移動、削除などが終了していることを確認してください。

### 2 画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された （ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す）をクリックします。

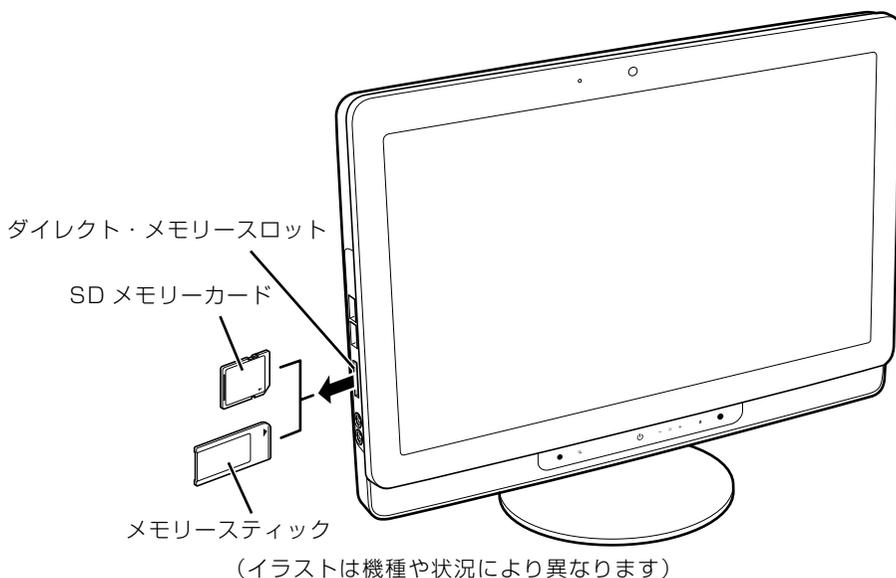
メモリーカードによっては、 （ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す）が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、メモリーカードのマニュアルをご覧になり、確認してください。

### 3 「nnn の取り出し」をクリックします。

nnn にはお使いのメモリーカードの名称が表示されます。

### 4 「nnn はコンピューターから安全に取り外すことができます。」というメッセージが表示されたら、メモリーカードをパソコンから取り出します。

パソコン本体を左右に回転すると、操作しやすくなります。
メモリーカードを一度押すと、少し飛び出します。

（イラストは機種や状況により異なります）

飛び出したメモリーカードを引き抜きます。

**重要** メモリーカードを取り出すときの注意

- ダイレクト・メモリースロットからメモリーカードを取り出す場合は、メモリーカードを強く押さないでください。指を離したときメモリーカードが飛び出し、紛失したり、衝撃で破損したりするおそれがあります。
  また、メモリーカードを引き抜くときは、ひねったり斜めに引いたりして、メモリーカードに無理な力がかからないようにしてください。
- メモリーカードを取り出すときは、ダイレクト・メモリースロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出して、思わぬけがをするおそれがあります。

メモリーカードについては、次のマニュアルもご覧ください。

**参照** メモリーカードについて

『画面で見るマニュアル』»「000700」で検索
→「メモリーカードを使う」

# LAN 機能を使う



## LAN（有線 LAN）をお使いになる場合

LAN［ラン］（有線 LAN）をお使いになる場合に必要なものなどを説明します。
ここでは、ブロードバンドインターネットにパソコンを接続する例を説明します。

### 必要なものを用意する

このパソコンの他に、次のものが必要です。

- ブロードバンドモデム
  ADSL［エーディーエスエル］モデム、ケーブルモデムなど、インターネットの回線や、プロバイダーにより異なります。
- ルーター
  異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークの中を流れるデータをきちんと目的の場所（パソコンやプリンターなど）に届けるための機器です。
  一般的には、LAN と外部のネットワーク（インターネット）を結ぶために使われます。
  複数台のパソコンを接続する場合は必要です。ブロードバンドモデムに搭載されている場合もあります。
  なお、1000BASE-T［ベースティー］の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したものを使用してください。
- ハブ
  ネットワーク上でケーブルを中継するための機器です。
  複数台のパソコンを接続する場合に必要です。ルーターに搭載されている場合もあります。
  1000BASE-T の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したものを使用してください。
- LAN ケーブル（ストレートタイプ）
  お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。
  1000BASE-T の通信を行うためには、エンハンストカテゴリ 5（カテゴリ 5E）以上の LAN ケーブルを使用してください。

### LAN を使うための設定

LAN をお使いになるためには、必要な機器を LAN ケーブルで接続し、ネットワークの設定を行います。インターネットに接続する場合は、プロバイダーより提供されるマニュアルに従って、機器の設定をしてください。

接続、設定の方法については、次のマニュアルでも説明しています。

**参照** **有線 LAN の設定**

『画面で見るマニュアル』»「000100」で検索
→「LAN を使う」

# 無線 LAN をお使いになる場合

## 必要なものを用意する

無線 LAN を使うためには、このパソコンの他に次のものが必要です。

- 無線 LAN アクセスポイント
  LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用して情報のやり取りを行う無線 LAN では、「無線 LAN アクセスポイント」と呼ばれる機器が必要となります。

## 無線 LAN を使うための設定

無線 LAN を使うには、無線 LAN アクセスポイントとパソコンの設定を行います。
初めて設定する場合は、使用するネットワークの情報やデータの暗号化などを、無線 LAN アクセスポイントとパソコンの両方に設定します。
すでにネットワークで使われている無線 LAN アクセスポイントに接続する場合は、無線 LAN アクセスポイントと同じ設定になるように、パソコンを設定します。

無線 LAN については、次のマニュアルをご覧ください。

参照 **無線 LAN の設定**

『画面で見るマニュアル』»「001000」で検索
→「無線 LAN を使う」

参照 **別売の無線 LAN カードなどを使う**

『画面で見るマニュアル』»「001020」で検索
→「別売の無線 LAN アダプターを使う」

参照

『セットアップガイド』
→「インターネットの設定をする」

パソコンの取り扱い

# Web カメラを使う

このパソコンには、動画や静止画を撮影することのできるカメラが搭載されています。Web［ウェブ］カメラを使って、動画や静止画を撮影したりテレビ電話を楽しむことができます。



## Webカメラでできること

このパソコンのWebカメラでは、主に次のことができます。

- 動画や静止画を撮影する（「YouCam［ユーカム］」）
  Webカメラで撮影したデータは、メールに添付することもできます。
- テレビ電話を楽しむ（「Windows Live Messenger［ウィンドウズライブメッセンジャー］」）
  インターネットに接続している仲間と、リアルタイムでメッセージの交換などもできます。

**Point 明るい部屋で使用してください**

Webカメラを使用する場合は、部屋を明るくしてください。

## Webカメラを使うソフトウェアの起動方法と使い方

### 「YouCam」

起動方法

**1** （スタート）→「すべてのプログラム」→「@メニュー」→「@メニュー」の順にクリックします。

**2**「@メニュー」上部の「名前でさがす」をクリックし、左側にあるカテゴリの中から「映像・写真」をクリックします。

**3**「YouCam」をクリックします。

詳しい使い方については、「YouCam」のヘルプをご覧ください。
「YouCam」のヘルプは、ウィンドウ右上の ? をクリックすると表示されます。

## 「Windows Live Messenger」

起動方法

1 (スタート)→「すべてのプログラム」→「@メニュー」→「@メニュー」の順にクリックします。

2 「@メニュー」上部の「名前でさがす」をクリックし、左側にあるカテゴリの中から「インターネット・メール」をクリックします。

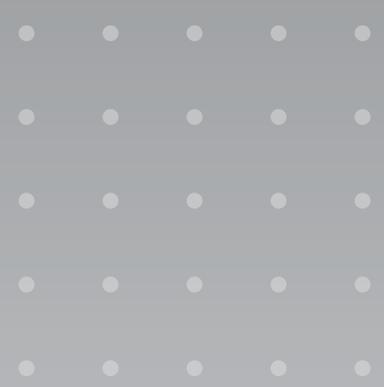
3 「Windows Live Messenger」をクリックします。

Point 「Windows Live Messenger」について

・「Windows Live Messenger」のご利用には、Windows Live ID の取得が必要です。
・「Windows Live Messenger」をこのパソコンよりアンインストールした場合、再度インストールするには「Windows Live Messenger」のホームページ(http://messenger.live.jp/)よりプログラムをダウンロードする必要があります。

各ソフトウェアのお問い合わせ先については、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『サポート & サービス』
→「付録」→「ソフトウェアのお問い合わせ先」

第3章

# 周辺機器の設置／設定／増設

周辺機器の使用上の注意やメモリの増やし方などを説明しています。目的に合わせてお読みください。

# 周辺機器をお使いになる場合

ここでは、メモリなどの周辺機器をお使いになる場合に知っておいていただきたいことについて説明します。

## ⚠警告

・周辺機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

・周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となります。

## 周辺機器とは

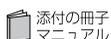
メモリ、プリンター、デジタルカメラなどの装置のことです。パソコン本体内部に取り付けたり、パソコンの各コネクタに接続したりします。

## 周辺機器を取り付けると

メモリを取り付けてパソコンの処理能力を上げたり、プリンターを接続して印刷したりなど、パソコンでできることがさらに広がります。
また、デジタルカメラで撮影した画像をパソコンに取り込んで、E メールに添付したりできます。

## 周辺機器の取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- **周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします**
  純正品が用意されている周辺機器については、純正品以外を取り付けて、正常に動かなかったり、パソコンが故障しても、保証の対象外となります。
  純正品が用意されていない周辺機器については、このパソコンに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
  例：Windows 7 Home Premium のパソコン
- **周辺機器に添付のドライバーがお使いの Windows 7 Home Premium に対応しているか確認してください**
  お使いになる周辺機器のドライバーがお使いの Windows 7 Home Premium に対応していないと、その周辺機器はお使いになれません。必ずお使いの Windows 7 Home Premium に対応したものをご用意ください。

- **一度に取り付ける周辺機器は 1 つだけにしてください**
  一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。1 つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行ってから、別の周辺機器を取り付けてください。
- **マイク・ラインイン兼用端子／ヘッドホン・ラインアウト兼用端子への接続について**
  次のような場合には、あらかじめ音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンは使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
  - パソコン本体の電源を入れるとき、切るとき
  - マイク・ラインイン兼用端子やヘッドホン・ラインアウト兼用端子にケーブルを接続するとき
- **周辺機器の電源について**
  周辺機器の電源はパソコン本体の電源を入れる前に入れるものが一般的ですが、パソコン本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。



## パソコン本体内部に取り付ける場合の注意

- **パソコンおよび接続されている機器の電源を切ってください**
  パソコンの電源を切った状態でも、パソコン本体内部には電流が流れています。安全のため、マニュアル内に電源プラグを抜くように指示がある場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。パソコン本体の電源の切り方については、「電源を切る」（➔P.17）をご覧ください。
- **電源を切った直後は作業をしないでください**
  電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後 10 分ほど待ってから作業を始めてください。
- **内部のケーブル類や装置の扱いに注意してください**
  傷を付けたり、加工したりしないでください。また、ねじったり、極端に曲げたりしないでください。
- **柔らかい布の上などで作業してください**
  固いものの上に直接置いて作業すると、パソコン本体に傷が付くおそれがあります。
- **静電気に注意してください**
  内蔵周辺機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を放電してください。
- **基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れないでください**
  金具の部分や、基板のふちを持つようにしてください。
- **ドライバーを用意してください**
  パソコン本体のメモリスロットカバーなどの取り外しには、プラスのドライバーが必要です。
  ネジ頭のサイズに合った 2 番のドライバーをお使いください。他のドライバーを使うと、ネジ頭をつぶすおそれがあります。

**重要** 周辺機器の取り付け手順を印刷しておいてください

操作の途中で電源を切る必要のある周辺機器については、「画面で見るマニュアル」の該当ページの先頭に「このページは印刷しておくと便利です」と記載されています。操作を始める前に、「画面で見るマニュアル」の該当ページをプリンターで印刷してご覧ください。

# 周辺機器の取り付け方を調べる

本マニュアル内では、「メモリを増やす」（→P.57）、「メモリーカードを使う」（→P.42）などを記載しています。その他の周辺機器の取り付けについては、画面で見るマニュアルでも紹介しています。
お使いになる周辺機器のマニュアルとあわせてご覧ください。

**参照** 周辺機器について

『画面で見るマニュアル』
→「5. パソコン本体の取り扱い」または「6. 周辺機器の接続」

## 「画面で見るマニュアル」で調べる

### 1 表示される画面の中から取り付けたい周辺機器をクリックします。

例えば、デジタルビデオカメラを接続する場合は、「6. 周辺機器の接続」→「デジタルビデオカメラを接続する」をクリックします。

（画面は機種や状況により異なります）

# メモリを増やす

メモリ容量を増やすことによって、パソコンの処理能力などを上げることができます。

## メモリの組み合わせを確認する

機種によっては、ご購入時に最大容量のメモリが搭載されている場合があります。ご購入時のメモリ容量と増設できるメモリの組み合わせは、次の表をご覧ください。
この表以外の組み合わせにすると、パソコンが正常に動作しないことがあります。

| 総容量 | メモリスロット 1 | メモリスロット 2 |
|---|---|---|
| 2GB（ご購入時） | 2GB | － |
| 4GB（最大） | 2GB | 2GB |

## メモリを取り付けるときの注意

### 警告

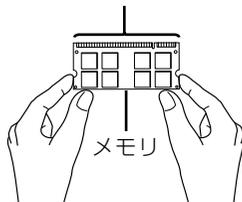
・メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

### ⚠注意

・メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

・基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

・取り外したメモリは小さいお子様の手の届かないところに置いてください。
お子様が手を触れたり、口に入れると、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

- メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差したり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。
- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリの表面の端子や IC 部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度メモリを取り付け直してください。
- メモリは下図のように両手でふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。

- パソコン本体の電源を切った状態でも、パソコン本体内部には電流が流れています。必ず電源プラグをコンセントから抜いたことを確認してください。

## 必要なものを用意する

### ■ メモリ（拡張 RAM［ラム］モジュール）

FMVDM2GMS6（2GB）のメモリが取り付けられます。

### ■ プラスのドライバー（ドライバーサイズ：2 番）

このパソコンのネジを取り外すときに使います。ネジ頭のサイズに合った 2 番のドライバーをお使いください。他のドライバーを使うと、ネジ頭をつぶすおそれがあります。

## メモリを取り付ける

### ⚠ 警告

- メモリの取り付けや交換を行うときなど、背面カバーを開ける場合は、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後、しばらく経ってから背面カバーを開けてください。
  落雷が起きた場合に感電の原因となります。

ここでは、メモリを増やす方法を説明します。
「メモリを取り付けるときの注意」（→P.58）をご覧になり、作業を進めてください。

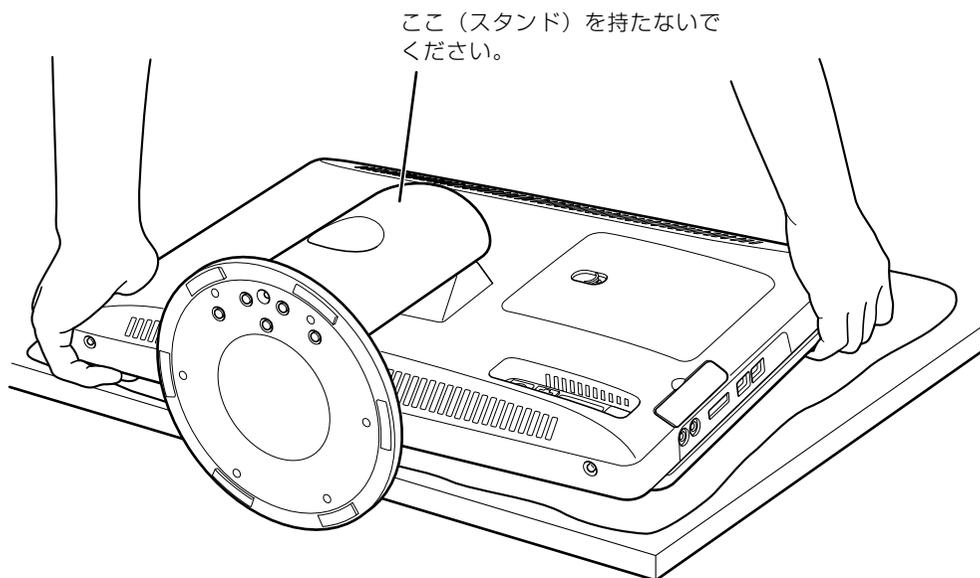
### 1 パソコン本体と接続されている周辺機器の電源を切ります。

パソコン本体の電源の切り方については、「電源を切る」（→P.17）をご覧ください。

### 2 電源プラグをコンセントから抜きます。

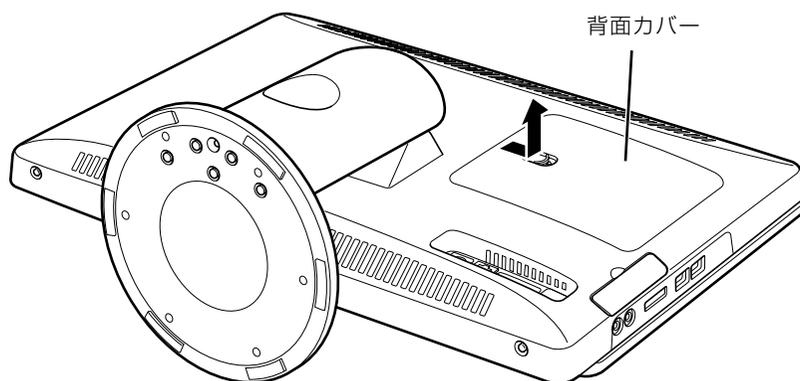
電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後 10 分ほど待ってください。

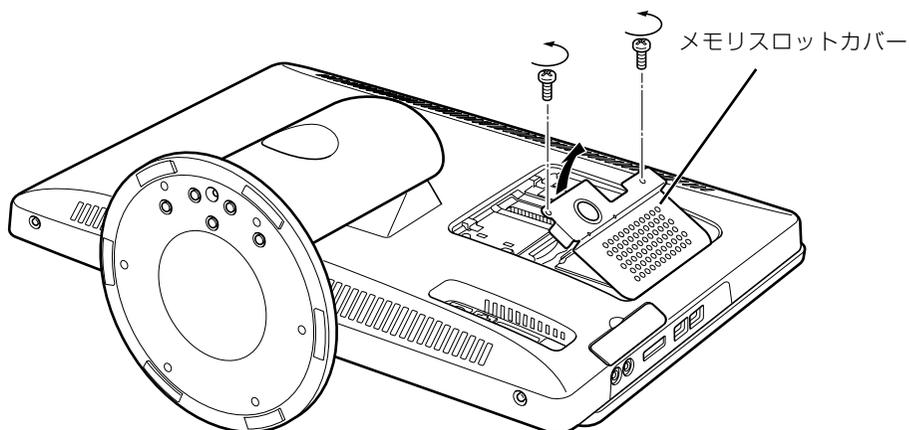
# 3 パソコン本体の背面が上になるように、パソコン本体を横にします。

パソコン本体を水平にするため、スイーベルが台の端から外へ出るように置いてください。
作業は厚手の柔らかい布を敷いた平坦な台の上でしてください。特に、液晶ディスプレイに突起物があたらないようにしてください。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

**重要** パソコン本体は重量があります

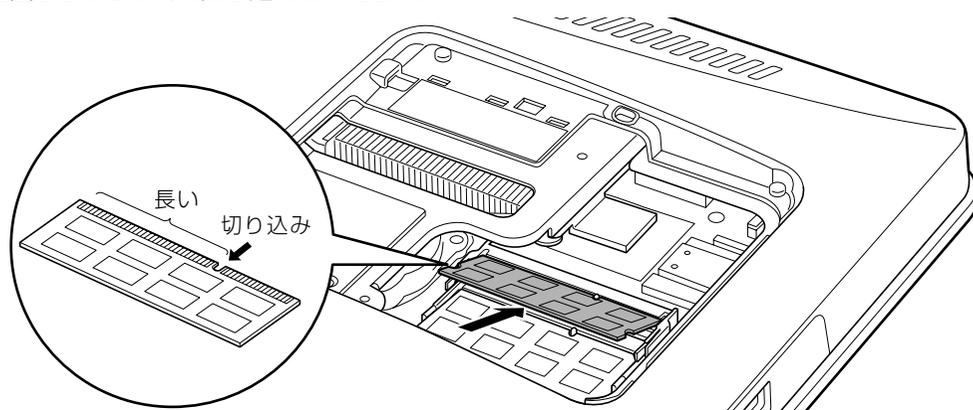
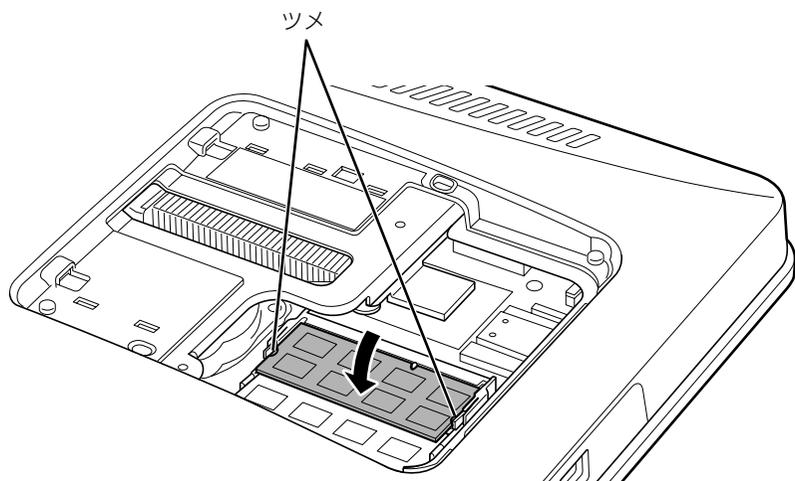
パソコン本体を横にするときは、衝撃を与えたり、落下させないよう充分ご注意ください。

# 4 背面カバーを取り外します。

# 5 メモリスロットカバーを取り外します。

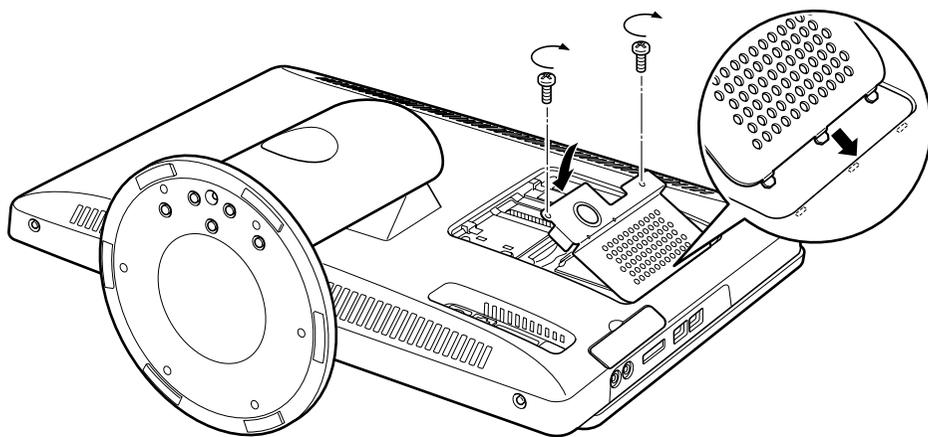
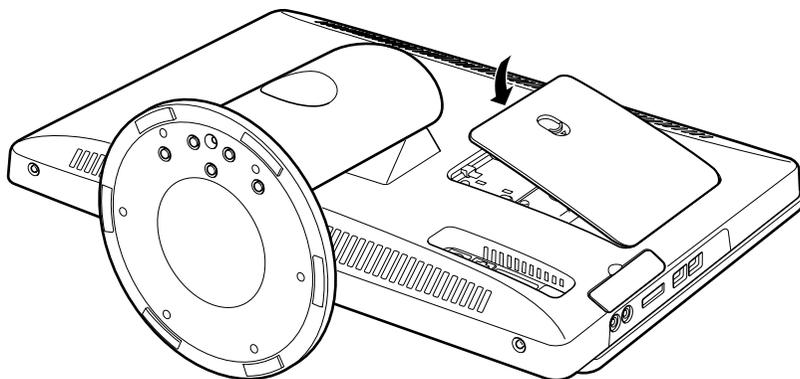
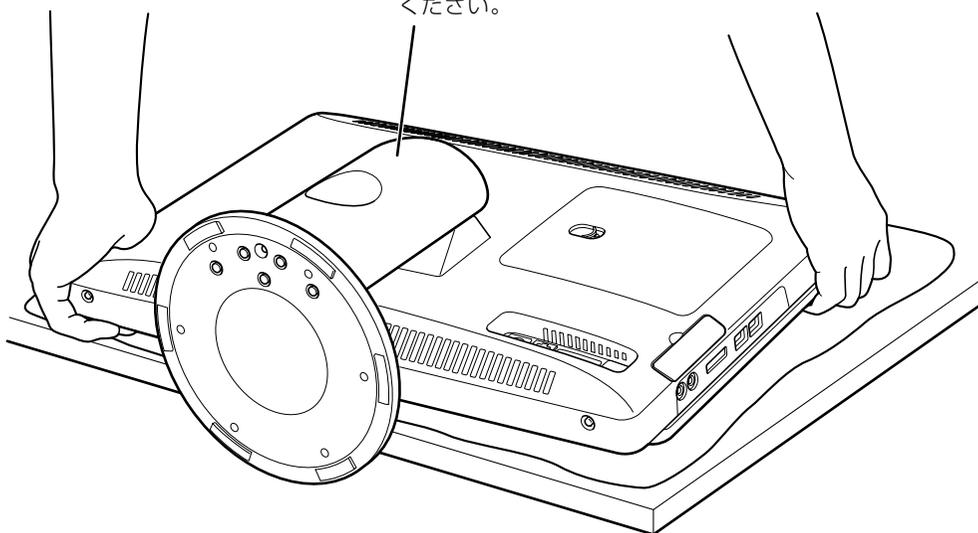
メモリスロットカバーのネジ（2ヶ所）を外し、メモリスロットカバーを取り外してください。

# 6 メモリ容量の組み合わせを確認します。

メモリの容量と組み合わせについては、「メモリの組み合わせを確認する」（→P.57）をご覧ください。

# 7 新しいメモリをメモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている部分から端までの距離が長いほうを左側に向けて、メモリスロット正面からまっすぐに差し込んでください。

## 8 「パチン」と音がするまで下に倒します。

メモリを押さえている両側のツメが、きちんとはまったことを確認してください。

## 9 メモリスロットカバーを取り付け、ネジ（2ヶ所）をプラスのドライバーで回して固定します。

ネジは固く締めすぎないようにしてください。

## 10 背面カバーを取り付けます。

## 11 パソコン本体を立てます。

**重要** **パソコン本体は重量があります**

パソコン本体を立てるときは、衝撃を与えたり、落下させないよう充分ご注意ください。

## 12 パソコン本体に接続されていた機器をすべて取り付けます。

## 13 パソコン本体および接続されている機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。

続いて、メモリが正しく取り付けられたかメモリ容量を確認しましょう（→P.65）。

## メモリ容量を確認する

メモリを取り付けた後、増やしたメモリが使える状態になっているかを確認してください。
必ず、背面カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

### 1 パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れる」（→P.15）をご覧ください。

**Point** Windows が正常に起動しない場合

メモリが正しく取り付けられていないと、パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。
その場合は、⏻（電源）マークに 4 秒以上触れ続けてパソコンの電源を切り、電源プラグを抜いた後、メモリを取り付け直してください。

### 2 （スタート）→「コントロールパネル」→「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。

### 3 丸で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。

（画面は機種や状況により異なります）

### 4 をクリックします。

3

周辺機器の設置／設定／増設

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

- 増やしたメモリがこのパソコンで使える種類のものか
「必要なものを用意する」（→P.59）

- メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか
「メモリを取り付ける」（→P.59）

- メモリを正しく組み合わせているか
「メモリの組み合わせを確認する」（→P.57）

# 第4章
# お手入れ

パソコン本体の日ごろのお手入れ方法について説明しています。



4

# お手入れ

ここでは、このパソコンを快適にお使いいただくための、日ごろのお手入れについて説明します。

## ⚠警告

・お手入れをする場合は、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

・清掃の際、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。
故障・火災の原因となります。

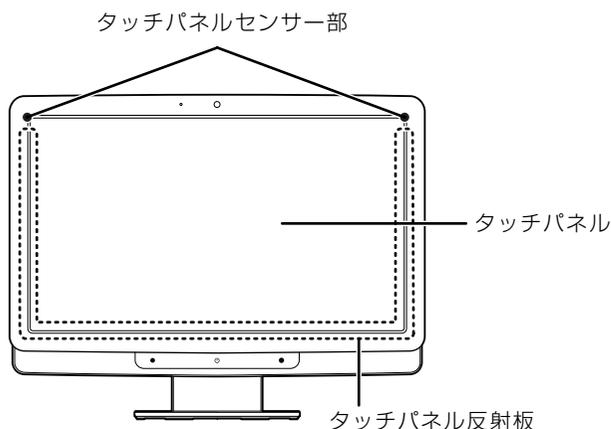
## パソコン本体および添付品のお手入れ

**重要 次のものは使わないでください**

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきん、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）は絶対に使わないでください。
アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使わないでください。

パソコン本体の通風孔、およびパソコン本体内部にほこりがたまらないように、定期的に清掃してください。
パソコン本体の通風孔やパソコン本体内部は、掃除機を使ってほこりを吸い取ってください。
パソコン本体やマウス、キーボードなどの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を固く絞って、拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って、中性洗剤を拭き取ってください。また拭き取るときは、パソコン本体やマウス、キーボードに水が入らないよう充分注意してください。
キーボードのキーとキーの間のほこりなどを取る場合は、ゴミを吹き飛ばすのではなく、筆のような先の柔らかいものを使ってゴミを取ってください。ゴミを吹き飛ばすと、キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。

## 液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイ（タッチパネル）や、周囲の縁にほこりがたまると、正常に動作しません。液晶ディスプレイは、定期的に清掃してください。

（イラストは機種や状況により異なります）

### ⚠警告

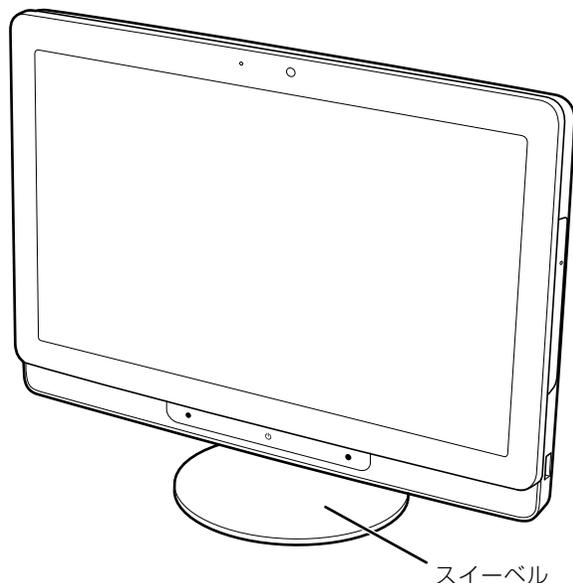
・タッチパネルはガラスを使用しているため、急激な衝撃を与えたり、パソコン本体を転倒・落下させないでください。
破損するおそれがあります。
また、破損した場合は、ガラスの破片に直接触れないよう注意して清掃してください。
特に、お子様がいるご家庭では、清掃が完了するまでお子様が近づかないよう注意してください。

一般の家庭用ガラスクリーナーを含ませた柔らかい布、またはペーパータオルで、タッチパネルやディスプレイの縁を拭いてください。中性のガラスクリーナーを使う場合は、布に少量吹き付けてから使用してください。

**重要** **タッチパネルのお手入れを行う場合の注意**

・液晶ディスプレイ（タッチパネル）に直接クリーナーを吹きかけたり塗ったりしないでください。必ず柔らかい布などにクリーナーを吹きかけてから、汚れを拭き取ってください。直接吹きかけると、タッチパネル反射板がはがれて、正常に動作しなくなる場合があります。
・研磨剤を含んだクリーナーやクロスを使用しないでください。タッチパネルを傷つける場合があります。
・タッチパネルセンサー部には触れないでください。センサー部の近くにゴミなどが付着した場合は、注意して取り除いてください。センサー部が傷つくと、正常に動作しません。
・タッチパネル反射板を拭くときに、反射板を強く押さないでください。反射板が破損すると、正常に動作しません。

## スイーベルのお手入れ

スイーベルは、ステンレス製です。表面のほこりや汚れは、ガーゼなどの乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどいときは、水を含ませた布を固く絞って拭き取り、ガーゼなどの乾いた柔らかい布で拭いてください。水分が残ると、変色などのおそれがあります。
また、スイーベルの上にヘアピンなどの金属製品を、長期間置かないでください。サビが発生するおそれがあります。

（イラストは機種や状況により異なります）

## CD/DVD ドライブのお手入れ

市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、CD/DVDドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因になりますので絶対に使わないでください。
うまく読み取れない場合には、ディスクの指紋、ほこりなどの汚れを拭き取ることで改善されることがあります。
拭き取り方法はディスクの種類により異なります。詳しくはディスクの説明書／レーベルなどをご覧ください。

# パソコン本体内部や通風孔のお手入れ

パソコン本体の通風孔や内部にほこりがたまると、故障の原因となります。
ほこりの堆積量は、お客様の環境によって異なります。次の清掃方法に従って、1ヶ月に 1 度程度掃除してください。

## 必要なものを用意する

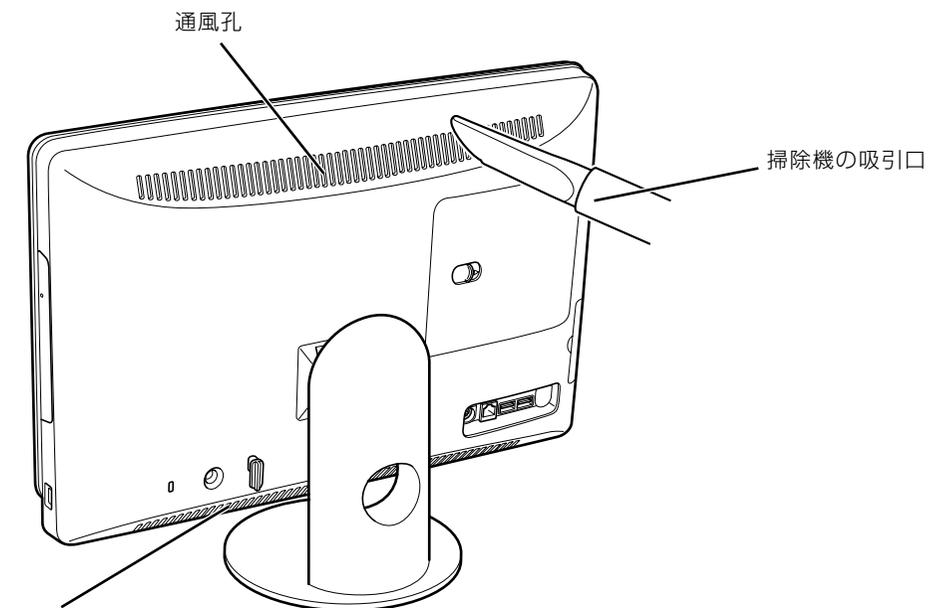
- 掃除機

## 清掃方法

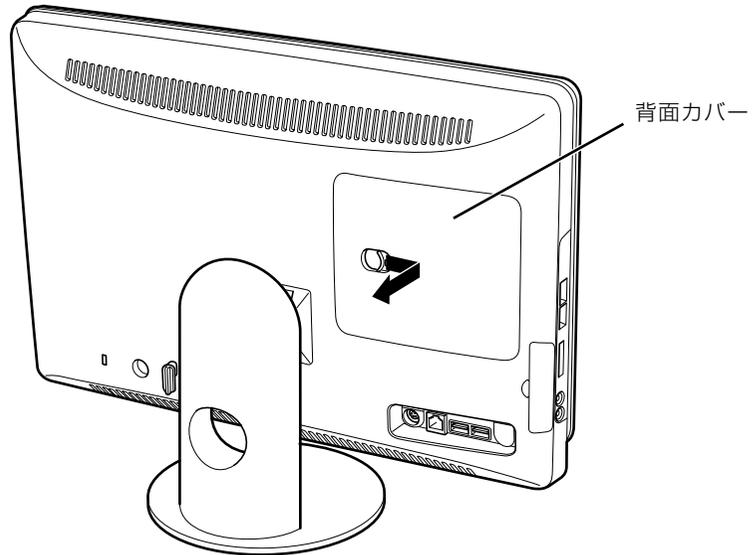
### パソコン本体のお手入れをするときの注意

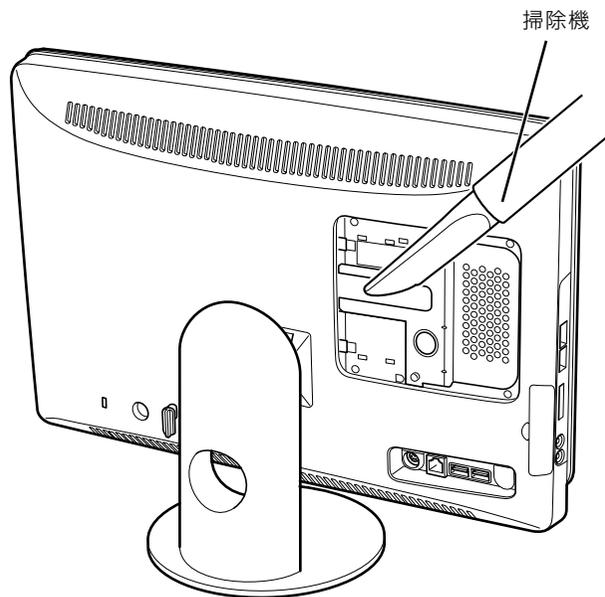
- 充分に換気してください。
  清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。
- 洗剤は使用しないでください。
- エアダスターなどの清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。
- 清掃時に破損した場合、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分ご注意ください。
- 静電気を放電してください。
  パソコン本体内部は、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、掃除機の吸引口や人体にたまった静電気によって破壊される場合があります。
  パソコン本体内部のお手入れをする前に、一度金属質のものに手を触れたり金属質のものに掃除機の吸引口先端を触れさせたりして、静電気を放電してください。

## ■ 通風孔の清掃方法

### 1 掃除機の吸引口にノズルを取り付け、通風孔のほこりを直接吸い取ります。

（イラストは機種や状況により異なります）

## ■ パソコン本体内部の清掃方法

### 1 背面カバーを取り外します。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

### 2 掃除機でほこりを直接吸い取ります。

## 3 背面カバーを取り付けます。

## 4 パソコン本体の電源を入れ、Windows が起動することを確認してください。

「電源を入れる」（→P.15）をご覧ください。

## 「お手入れナビ」について

このパソコンには、パソコン本体のお手入れ時期を通知するソフトウェア「お手入れナビ」がインストールされています。「お手入れナビ」は、定期的にパソコン本体のお手入れ時期を通知したり、パソコン本体内部や通風孔などにほこりがたまっている可能性があるときにお手入れ時期を通知したりします。なお、このパソコンご購入時には、定期的な通知が無効になっています。

ここでは、次の内容について説明します。

- 定期的なお手入れ時期の通知を有効にする方法
- 「お手入れナビ」が表示するメッセージと、メッセージが表示されたときの対処方法

ほこりの堆積量は、お使いの環境によって異なります。「パソコン本体内部や通風孔のお手入れ」（→P.71）をご覧になり、1ヶ月に 1 度程度掃除してください。

### 定期的なお手入れ時期の通知を有効にする

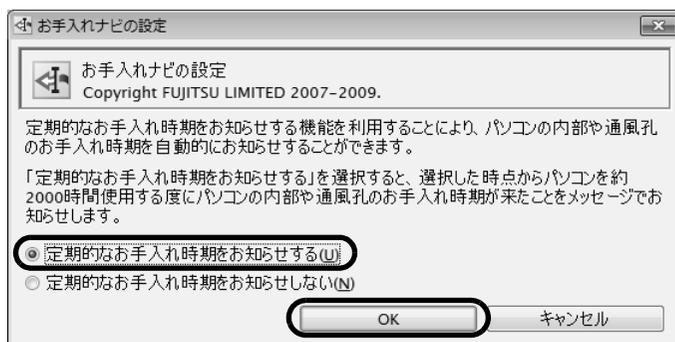
パソコンの使用時間が 2000 時間（1 日 8 時間使用の場合に 250 日）を超えるごとに、「お手入れナビ」からお手入れ時期がきたことを通知する場合は、次の操作をしてください。

**1** （スタート）→「すべてのプログラム」→「お手入れナビ」→「お手入れナビの設定」の順にクリックします。

「お手入れナビの設定」ウィンドウが表示されます。

**2** 「定期的なお手入れ時期をお知らせする」の ◎ をクリックして ◉ にし、「OK」をクリックします。

（画面は機種や状況により異なります）

4

お手入れ

## 「お手入れナビ」が表示するメッセージ

- 「大切なお知らせです。」という画面が表示された場合

定期的なお手入れ時期がくると、画面右下に「大切なお知らせです。こちらをクリックして、詳細をお確かめください。」という画面が表示されたり、画面右下の通知領域に(DustSolution)が表示されたりします。この場合は、次の手順で操作してください。

**1 作業中のデータを保存し、ソフトウェアを終了します。**

**2 画面右下の通知領域に(DustSolution)が表示されている場合は、(DustSolution)をクリックします。**

**3 「大切なお知らせです。こちらをクリックして、詳細をお確かめください。」をクリックします。**

「大切なお知らせ」ウィンドウが表示されます。

**4 「今すぐお手入れを開始する」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。**

「お手入れの手順」ウィンドウが表示されます。

**5 画面のメッセージをよく読んでから、「今すぐ清掃をする」をクリックします。**

パソコン本体の電源が切れます。「パソコン本体内部や通風孔のお手入れ」（→P.71）をご覧になり、パソコン本体のお手入れをしてください。

- 警告メッセージが表示された場合

パソコン本体内部や通風孔にほこりがたまっている可能性がある場合や、パソコン本体内部のファンが正しく動作していない場合に、次の警告メッセージが表示されます。

- 「パソコンの内部や通風孔にほこりが詰まっている可能性があります。」
- 「パソコンの空冷用ファンが正しく動作していません。」

警告メッセージが表示された場合は、作業中のデータを保存し、ソフトウェアを終了してから、画面の指示に従って操作してください。

# 第5章

# 取り扱い上の注意

パソコンを移動する場合の注意事項について説明しています。

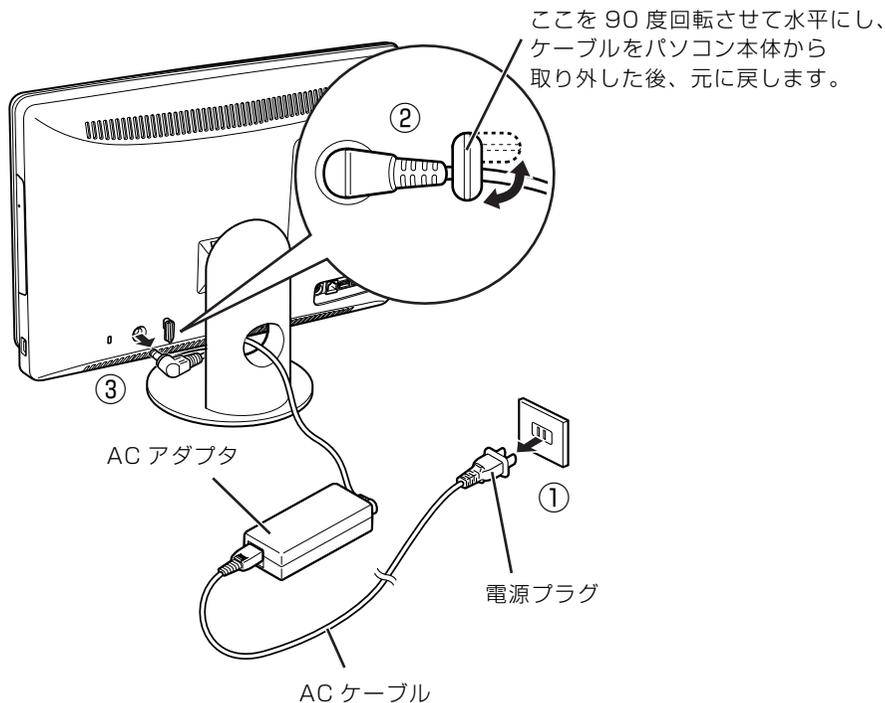


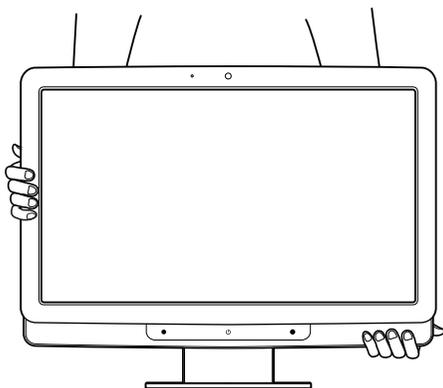
5

# パソコンを移動する場合の注意

## パソコンを移動する場合の注意

パソコンを移動する場合は、次の点に注意してください。

- パソコン本体の電源が切れていることを確認してから、AC アダプタや接続されているケーブル類を取り外してください。
  AC アダプタの取り外し方は、次のとおりです。
  ① AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜きます。
  ②固定していたケーブルを外します。
  ③ AC アダプタを DC-IN［ディーシーイン］コネクタから取り外します。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

- 液晶ディスプレイ部分を前にして、パソコン本体下部と側面部を持ってください。

- スピーカー部分は、押さないでください。故障や破損の原因となります。
- 液晶ディスプレイ部分は、絶対に触れないでください。故障や破損の原因となります。

第6章

# 仕様一覧

パソコン本体の仕様を記載しています。
製品名称（品名）は、梱包箱に貼り付けられている保証書でご確認ください。



次の表は各機種ごとの特徴を示しています。詳しい仕様については、次ページからの仕様一覧をご覧ください。

| 製品名称（品名） | ディスプレイ | タッチパネル | リモコン | 無線 LAN | テレビ<br>チューナー |
|---|---|---|---|---|---|
| F/ER | 20 型ワイド | ○ | − | ○ | − |

○：添付または搭載、△：機能を選択した場合に添付または搭載、−：非添付または非搭載

6

# パソコン本体の仕様

| 製品名称 | | FMV-DESKPOWER F/ER |
|---|---|---|
| 基本 OS [注1] | | Windows® 7 Home Premium 32 ビット 正規版 |
| CPU | | インテル® Core™2 Duo プロセッサー P8700 |
| | 動作周波数 | 2.53GHz |
| | 2 次キャッシュメモリ | 3MB（CPU 内蔵） |
| | セキュリティ機能 | CPU ウイルス防止機能[注2] |
| システムバス | | 1066MHz |
| チップセット | | モバイル インテル® GM45 Express チップセット |
| メインメモリ（標準／最大）[注3] | | 標準 2GB（2GB × 1）／最大 4GB（デュアルチャネル対応可能 DDR3 SDRAM、SO-DIMM、PC3-8500 対応、CL7）[注4] |
| メモリスロット数［空き］ | | 2［1］ |
| 表示機能 | グラフィック・アクセラレーター | モバイル インテル® グラフィックス・メディア・アクセラレーター 4500MHD（チップセットに内蔵） |
| | ビデオメモリ | 最大 776MB（メインメモリと共用）[注5] |
| | 内蔵ディスプレイ[注6] | タッチパネル式 20 型ワイド液晶[注7]（本体に内蔵） |
| | 表示寸法（幅×高さ） | 442 × 249mm |
| | 画素ピッチ | 0.276mm |
| | 解像度／最大表示色 | 最大 1600 × 900 ドット／フルカラー 1677 万色[注8] |
| ハードディスクドライブ[注9] | | 約 500GB（シリアル ATA/300、7200 回転／分） |
| DVD/CD ドライブ（→ P.86） | | スーパーマルチドライブ（DVD ± R DL（2 層）書き込み対応） |
| オーディオ機能 | | チップセット内蔵＋ High Definition Audio コーデック（最大 192kHz ／ 24 ビット[注10] ステレオ PCM 同時録音再生機能、MIDI 再生機能［OS 標準］） |
| スピーカー／マイク | | ステレオスピーカー（本体内蔵）、デジタルマイク（モノラル）本体内蔵[注11] |
| カメラ | | 内蔵（有効画素数約 130 万画素） |
| 入力装置 | キーボード | ワンタッチボタン付キーボード（105 キー、PS/2 インターフェース） |
| | ポインティングデバイス[注12] | USB マウス（光学式）（1000CPI、USB インターフェース）、タッチパネル式液晶[注7] |
| 通信機能 | LAN | 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 準拠、Wakeup on LAN 機能対応 |
| | 無線 LAN [注13] | IEEE 802.11n ドラフト 2.0 [注14] ／ IEEE 802.11b [注15] ／ IEEE 802.11g [注16] 準拠、Wi-Fi® 準拠[注17] |
| インターフェース | ダイレクト・メモリースロット[注18] | SD メモリーカード（SDHC カード含む）／メモリースティック（メモリースティック PRO 含む）対応 |
| | USB [注19] | USB2.0 準拠コネクタ 4 ピン× 5（2：左側面、1：右側面、2：背面） |
| | キーボード（PS/2） | PS/2 準拠ミニ DIN6 ピン× 1 |
| | LAN | RJ-45 |
| | オーディオ[注20] | マイク・ラインイン兼用端子、ヘッドホン・ラインアウト兼用端子 |
| 電源供給方式 | | AC アダプタ：入力 AC100 ～ 240V [注21]、出力 DC19V（5.27A） |
| 消費電力[注22] | 通常消費電力[注23] ／最大消費電力 | 約 48W ／ 104W |
| | 待機時消費電力（スリープ時）／電源 OFF 時 | 約 1.2W ／ 0.7W 以下 |
| 省エネ法に基づくエネルギー消費効率（省エネ基準達成率）[注24]（2007 年度基準） | | j 区分 0.00025（AAA） |

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（→ P.84）をご覧ください。

| 製品名称 | FMV-DESKPOWER<br>F/ER |
|---|---|
| 外形寸法（幅×奥行×高さ）<br>（突起部含まず） | 497 × 198 × 391mm |
| 本体質量 | 約 10.8kg |
| 盗難防止用ロック取り付け穴 | あり |
| 温湿度条件 | 温度 10 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、<br>温度 -10 ～ 60 ℃／湿度 20 ～ 90%RH（非動作時）<br>（ただし、動作時、非動作時ともに結露しないこと） |
| サポート OS 注 25 | Windows® 7 Home Premium 32 ビット 正規版、<br>Windows® 7 Professional 32 ビット 正規版、<br>Windows® 7 Ultimate 32 ビット 正規版 |

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（→ P.84）をご覧ください。

# 仕様一覧の注記について

注１ ： 日本語 32 ビット版。
注２ ： バッファーオーバーランによるコード実行などのウイルス攻撃に対する安全性を高めています。
注３ ： パリティチェック機能はありません。
注４ ： ・デュアルチャネルで動作させるには、増設メモリ（別売）を同一容量の 2 枚 1 組で搭載してください。
・最大メモリ容量にする場合は、増設メモリ（別売）を実装してください。3GB 構成での動作は保証しておりません。
・このパソコンに取り付けるメモリは、PC3-8500 対応（DDR3）のものをお使いください。
・ご購入時の設定では、合計で 2GB を超えるメモリを搭載した場合、完全メモリダンプを使用できません。
・取り付けるメモリの組み合わせについては、「メモリの組み合わせを確認する」（→ P.57）をご覧ください。
・4GB 搭載時でも、OS 画面上の表示にかかわらず、実際に使用可能な領域は約 3GB になります。なお、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。
注５ ： ・Intel® Dynamic Video Memory Technology（Intel® DVMT）を使用しており、パソコンの動作状況によりビデオメモリ容量が最大設定まで自動的に変化します。
・ビデオメモリの容量を任意に変更することはできません。
・ディスプレイドライバーの更新により、ビデオメモリ容量の最大値が変わる場合があります。あらかじめご了承ください。
・ビデオメモリの最大値は、メインメモリの搭載状況により異なります。
・メインメモリを 4GB 搭載した場合、ビデオメモリは最大 1288MB になります。
注６ ： ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
・このパソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・長時間同じ表示を続けると残像となることがありますが、故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
・表示する条件によっては、むらおよび微少な斑点が目立つことがありますが、故障ではありません。
注７ ： ・このパソコンのタッチパネルは、光学式タッチパネルを使用しています。正しく使うためには、先端部が約 5mm 以上のものでタッチしてください。
・タッチパネルの表面にはガラスを使用しています。取り扱いには注意してください。
注８ ： グラフィック・アクセラレーターの出力する最大発色数は 1677 万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって擬似的に表示されます。
注９ ： ・「NTFS」を採用しています。
また、Windows RE 領域とリカバリ領域に約 16GB 使用しています。残りの容量を C ドライブ、D ドライブにそれぞれ約 50% ずつ割り当てています。そのため、「コンピューター」のハードディスクの総容量は、マニュアルの記載よりも約 16GB 少なく表示されます。
なお、ハードディスクの区画の数や種別を変更したり、外付けドライブを接続した状態では、「トラブル解決ナビ」が正常に動作しなくなります。ご了承ください。
・このマニュアルに記載のディスク容量は、1MB=$1000^2$byte、1GB=$1000^3$byte 換算によるものです。
Windows 上で 1MB=$1024^2$byte、1GB=$1024^3$byte 換算で表示される容量は、このマニュアルに記載のディスク容量より少なくなります。
注 10： 再生時。録音時は最大 96kHz ／ 16 ビットです。なお、使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
注 11： デジタルマイクの音声は、スピーカーおよびヘッドホン・ラインアウト兼用端子から直接出力できません。
注 12： 操作面の状態によっては正しく動作しない場合があります。また、スクロール機能は使用するソフトウェアによって動作が異なったり、使用できない場合があります。
注 13： ・無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造や材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、または電波状況等の使用環境により、通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合があります。
・無線 LAN の仕様については、次のマニュアルをご覧ください。
『画面で見るマニュアル』»「002000」で検索
→「無線 LAN の仕様」
注 14： ・このパソコンの IEEE 802.11n ドラフト 2.0 の通信速度は最大で規格値 300Mbps、送信時の速度は最大で規格値 150Mbps（表示の数値は、本製品と同等の構成を持った機器との通信を行ったときの理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。）、使用する周波数帯域は 2.4GHz 帯、推奨通信距離は屋内 50m 以内です。
また、異なる規格の通信を同時に行うことはできません。
・IEEE 802.11n ドラフト 2.0 準拠で通信を行うためには、セキュリティを WPA-PSK/WPA2-PSK/WPA/WPA2（AES）に設定する必要があります。
・内蔵アンテナは、MIMO 方式となります。
注 15： ・IEEE 802.11b の通信速度は最大 11Mbps（IEEE 802.11b 規格による速度（理論値）であり実際の速度とは異なります。）、使用する周波数帯域は 2.4GHz 帯、推奨通信距離は屋内 25m 以内です。
また、異なる規格の通信を同時に行うことはできません。使用可能なチャンネルは、1 ～ 13ch です。
・内蔵アンテナは、ダイバーシティ方式となります。

注 16： ・IEEE 802.11g の通信速度は最大 54Mbps（IEEE 802.11g 規格による速度（理論値）であり実際の速度とは異なります。）、使用する周波数帯域は 2.4GHz 帯、推奨通信距離は屋内 25m 以内です。
また、異なる規格の通信を同時に行うことはできません。使用可能なチャンネルは、1 ～ 13ch です。
・内蔵アンテナは、ダイバーシティ方式となります。

注 17： Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の総合接続性テストに合格していることを示します。

注 18： ・SD メモリーカード（SDHC カードを含む）、メモリースティック（メモリースティック PRO を含む）の同時使用はできません。
・SD メモリーカード（SDHC カードを含む）は著作権保護機能（CPRM）が使用されているデータの読み書きに対応していません。
・miniSD カード、microSD カード、microSDHC カード、メモリースティック Duo、メモリースティック PRO Duo、メモリースティック PRO-HG Duo、メモリースティックマイクロの場合、別途、専用のアダプターが必要となります。
・すべての SD メモリーカード（SDHC カードを含む）、メモリースティック（メモリースティック PRO を含む）の動作を保証するものではありません。SDIO カード、マルチメディアカード（MMC）、およびセキュアマルチメディアカードには対応しておりません。
なお、ご使用可能な SD メモリーカードは最大 2GB、SDHC カードは最大 32GB までとなります。
・メモリースティック（メモリースティック PRO を含む）は著作権保護機能が使用されているデータの読み書きはできません。
・メモリースティック／メモリースティック PRO の 4 ビットパラレルデータ転送に対応しております。
・メモリースティック PRO-HG Duo をご使用になる場合、4 ビットパラレルでの転送になります。

注 19： USB1.1 対応の周辺機器も利用できます。USB2.0 で動作するには、USB2.0 対応の周辺機器が必要です。
また、すべての USB 対応機器の動作を保証するものではありません。

注 20： ・ご購入時の設定では、マイク・ラインイン兼用端子はマイク端子に設定されています。
・OS 上で設定を変更することにより、ラインイン端子として使用することもできます。なお、仕様は次のとおりとなります。
φ3.5mm ステレオ・ミニジャック
マイク端子として使用する場合の入力：100mV 以下、入力インピーダンス（AC）1kΩ 以上（DC）2kΩ 以上
ラインイン端子として使用する場合の入力：1V 以下、入力インピーダンス 10kΩ 以上
・ご購入時の設定では、ヘッドホン・ラインアウト兼用端子はヘッドホン端子に設定されています。
・OS 上で設定を変更することにより、ラインアウト端子として使用することもできます。なお、仕様は次のとおりとなります。
φ3.5mm ステレオ・ミニジャック
ヘッドホン端子として使用する場合の出力：1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω
ラインアウト端子として使用する場合の出力：1V 以上、負荷インピーダンス 10kΩ 以上

注 21： ・標準添付されている電源コードは、AC100V（国内専用品）用です。また、矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用 AC 電源等）に接続すると、故障する場合があります。
・入力波形は正弦波のみサポート。

注 22： ・出荷時の構成による測定値です。
・電源 OFF 時の消費電力を回避するには、パソコンの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注 23： 出荷構成で OS を起動させた状態での測定値です。

注 24： エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
省エネ基準達成率の表示語 A は達成率 100% 以上 200% 未満、AA は達成率 200% 以上 500% 未満、AAA は達成率 500% 以上です。

注 25： ・日本語 32 ビット版。
・富士通は本製品で「サポート OS」を動作させるために必要な BIOS およびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。

# その他の仕様

## DVD/CD ドライブ

・各数値は仕様上の最大限であり、使用メディアや動作環境によって異なる場合があります。
・DVD ソフトによっては再生できない場合があります。
・ディスクによってはご利用になれない場合もあります。
・書き込み、書き換え速度は、ドライブの性能値です。書き込み、書き換え速度に対応したディスクが必要になりますが、対応ディスクが販売されていない場合があります。
・読み出し、書き込み速度は、ディスクや動作環境によって異なる場合があります。
・DVD-R は、DVD-R for General Ver.2.0/2.1 に準拠したディスクの書き込みに対応しています。
・DVD-RAM はカートリッジから取り出した状態あるいはカートリッジなしでご使用ください。
・Ultra Speed CD-RW ディスクはご使用になれません。
・8cm の CD または 12cm の CD/DVD がお使いになれます。

| ドライブ | | スーパーマルチドライブ（DVD ± R DL（2 層）書き込み）（バッファーアンダーランエラー防止機能） |
|---|---|---|
| 読み出し | CD-ROM | 最大 24 倍速 |
| | CD-R | 最大 24 倍速 |
| | CD-RW | 最大 24 倍速 |
| | DVD-ROM | 最大 8 倍速 |
| | DVD-R | 最大 8 倍速 |
| | DVD+R | 最大 8 倍速 |
| | DVD-RW | 最大 8 倍速 |
| | DVD+RW | 最大 8 倍速 |
| | DVD-RAM | 最大 5 倍速 |
| | DVD-R DL（2 層） | 最大 6 倍速 |
| | DVD+R DL（2 層） | 最大 6 倍速 |
| 書き込み／書き換え | CD-R | 最大 24 倍速 |
| | CD-RW | 最大 10 倍速 |
| | DVD-R | 最大 8 倍速 |
| | DVD+R | 最大 8 倍速 |
| | DVD-RW | 最大 6 倍速 |
| | DVD+RW | 最大 8 倍速 |
| | DVD-RAM | 最大 5 倍速 |
| | DVD-R DL（2 層） | 最大 4 倍速 |
| | DVD+R DL（2 層） | 最大 4 倍速 |

## スピーカー

| 方式 | バスレフ型 |
|---|---|
| スピーカーユニット | （口径：20（mm）× 2 個）× 2　インピーダンス 4Ω |
| 定格入力 | 2W/ch |
| 出力音圧レベル | 76 ± 3dB/W（1m） |
| 再生周波数 | 290Hz ～ 18kHz |


画面で見るマニュアル | 添付の冊子マニュアル ▶このマニュアルの巻頭でご案内しています。

# LAN 機能

次の表は、有線 LAN の仕様です。無線 LAN の仕様については、次のマニュアルをご覧ください。

参照 **無線 LAN の仕様について**

『画面で見るマニュアル』»「002000」で検索
→「無線 LAN の仕様」

| LAN コントローラ | Broadcom BCM57780 |
|---|---|
| 送受信バッファー用 RAM | 送受信　各最大 4kbyte |
| 外部インターフェース | ISO8802-3 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T |
| 伝送媒体 | ツイストペアケーブル注 1（1000Mbps：カテゴリ 5E 以上、100Mbps：カテゴリ 5 以上、10Mbps：カテゴリ 3 以上） |
| 伝送方式 | ベースバンド |
| アクセス方式 | CSMA/CD |
| データ転送速度 | 1000Mbps、100Mbps、10Mbps |
| 配線形態 | スター型 |
| セグメント最大長 | 100m |
| 最大ノード数／セグメント | ハブユニット注 2 による |

注 1：· 1000Mbps は 1000BASE-T の理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
· 1000Mbps の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したハブが必要となります。また、LAN ケーブルには、1000BASE-T に対応したエンハンスドカテゴリ 5（カテゴリ 5E）以上の LAN ケーブルを使用してください。お使いのケーブルによっては、正しく動作しない場合があります。その場合はケーブルメーカーにお問い合わせください。

注2：ハブユニットとは、1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

Point **ネットワークのスピードについて**

LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、スピードに対応した適切なデータグレードのケーブルを必ずお使いください。

# キーボード

| キー配列 | 105 キー（テンキー付）＋ワンタッチボタン（4 ケ）＋音量調節ボタン（2 ケ） |
|---|---|
| インターフェース | PS/2 インターフェース |
| ケーブル長 | 約 1.8m |
| 外形寸法（W × D × H） | 約 396mm ×約 170mm ×約 38mm（チルト未使用時） |
| 質量 | 約 860g（ケーブル含む） |

6

仕様一覧

# マウス

| セレクトスイッチ動作形式 | 2 押ボタン、1 ホイール |
|---|---|
| インターフェース | USB1.1 |
| ケーブル長 | 約 1m |
| 外形寸法（W × D × H） | 約 62.3mm × 約 40.35mm × 約 118.8mm |
| 質量 | 約 80g（ケーブル除く） |

# 索引

## 記号



## A



## C



## D



## L



## U



## W



## あ行



## か行



## さ行



## た行



## は行



## ま行

**FMV-DESKPOWER F/ER**

**取扱ガイド**

B6FJ-2751-01-00

発 行 日　2009 年 11 月
発行責任　富士通株式会社

〒 105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター
Printed in Japan



㋐0910-1

FUJITSU

本製品はPC3R「PCグリーンラベル制度」の
審査基準(2009年度版)を満たしています。
詳細は、Webサイト http://www.pc3r.jp を
ご覧ください。

このマニュアルはリサイクルに配慮して印刷されています。
不要になった際は、回収・リサイクルにお出しください。

T4988618649476